

2006年3月期 第3四半期 合同決算説明会

SBIホールディングス株式会社

イー・トレード証券株式会社

SBI証券株式会社

ファイナンス・オール株式会社

SBIパートナーズ株式会社

2006年1月30日

本資料に掲載されている事項は、SBIホールディングス株式会社、イー・トレード証券株式会社、SBI証券株式会社、ファイナンス・オール株式会社およびSBIパートナーズ株式会社のご案内等のほか、各社の事業戦略等に関する情報の提供を目的としたものであり、各社の発行する株式その他の有価証券への投資の勧誘を目的としたものではありません。なお、各社は、本資料に含まれた情報の完全性及び事業戦略など将来にかかる部分については保証するものではありません。また、本資料の内容は予告なしに変更又は廃止される場合がありますので、あらかじめご承知おきください。

(1) 連結決算業績

連結決算業績のハイライト

全セグメントが極めて好調に推移した結果、第3四半期までで過去最高だった前通期の売上高、営業利益、経常利益、及び当期純利益の全てを上回った。

売上高は初めて1,000億円を突破し、経常利益は前年同期から倍増の約400億円に迫る。

第4四半期を含む通期業績において、大幅な最高益の更新が予想される。

絶好調な業績推移を勘案し、今期1株あたり利益配当は前期350円から500円へと大幅増額予定。

PER、PBRは直近3年間での最低水準にあり、外国人投資家を含む機関投資家比率は40.5% (2005年12月9日現在)に達した。

2006年3月期 第3四半期 連結決算業績

(単位:百万円)

	2005年3月期 第3四半期 (2004年4月～12月)	2006年3月期 第3四半期 (2005年4月～12月)	前年同期比 増減率(%)	(ご参考) 2005年3月期 (前期)通期
売上高	58,869	100,368	+70.5	81,511
営業利益	17,368	38,135	+119.6	24,869
経常利益	19,597	39,607	+102.1	27,291
当期純利益	22,089 ²	39,185 ²	+77.4	25,631

1 SBIパートナーズの連結業績につきましては、2005年9月以降の業績を加算しております。

2 2005年3月期はイー・トレード証券のみなし売却等に伴う133億円の特別利益を、2006年3月期はイー・トレード証券のみなし売却に伴う230億円の特別利益をそれぞれ計上しております。

連結業績予想(昨年12月8日発表) を更に上回る好決算に

(単位:百万円)

	(2005年12月8日発表) 2006年3月期 第3四半期 業績予想	2006年3月期 第3四半期 (2005年4月~12月)	対業績予想比
売上高	92,800	100,368	+7,568
経常利益	34,200	39,607	+5,407
当期純利益	36,800	39,185	+2,385

2006年3月期 四半期別 連結決算業績

第3四半期は大幅に業績を拡大

(単位:百万円)

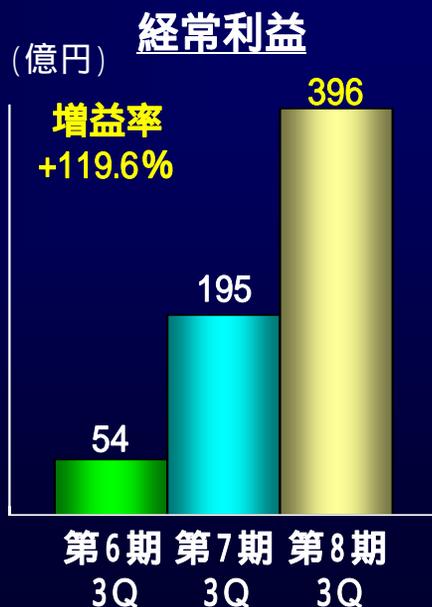
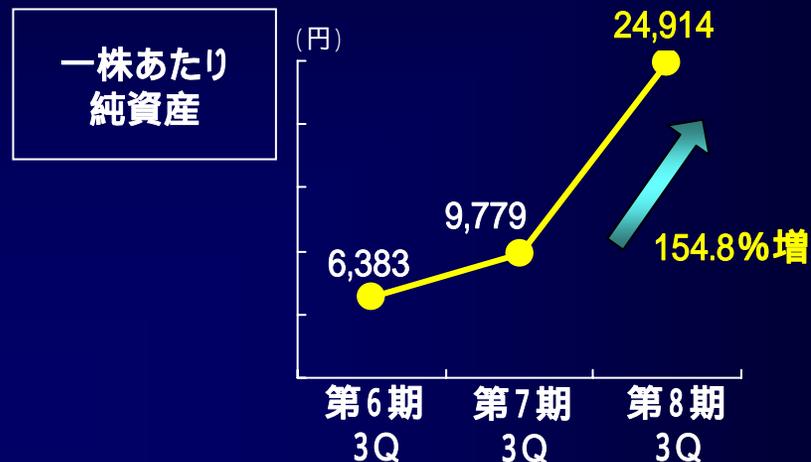
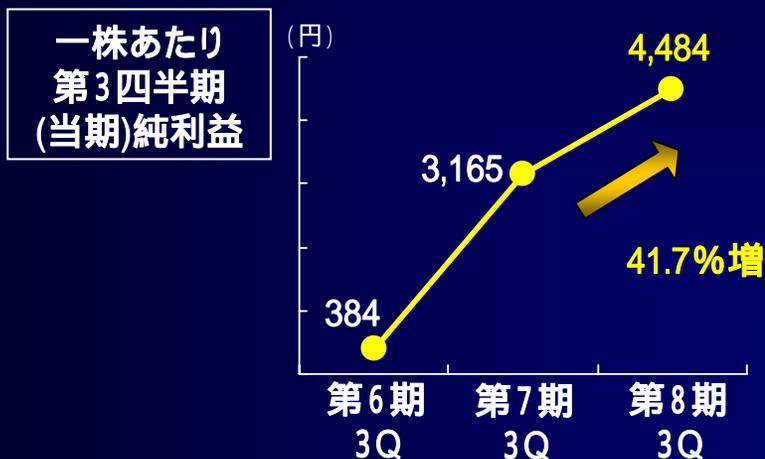
	第1四半期	第2四半期	中間期 (6ヶ月間)	第3四半期	第3四半期 累計 (9ヶ月間)
売上高	34,389	27,540	61,930	38,437	100,368
営業利益	10,704	8,960	19,664	18,470	38,135
経常利益	11,331	9,590	20,921	18,685	39,607
当期純利益	6,392	4,340	10,733	28,452	39,185

SBIパートナーズの連結業績につきましては、2005年9月以降の業績を加算しております。

第3四半期はイー・トレード証券のみなし売却に伴う230億円の特別利益をそれぞれ計上しております。

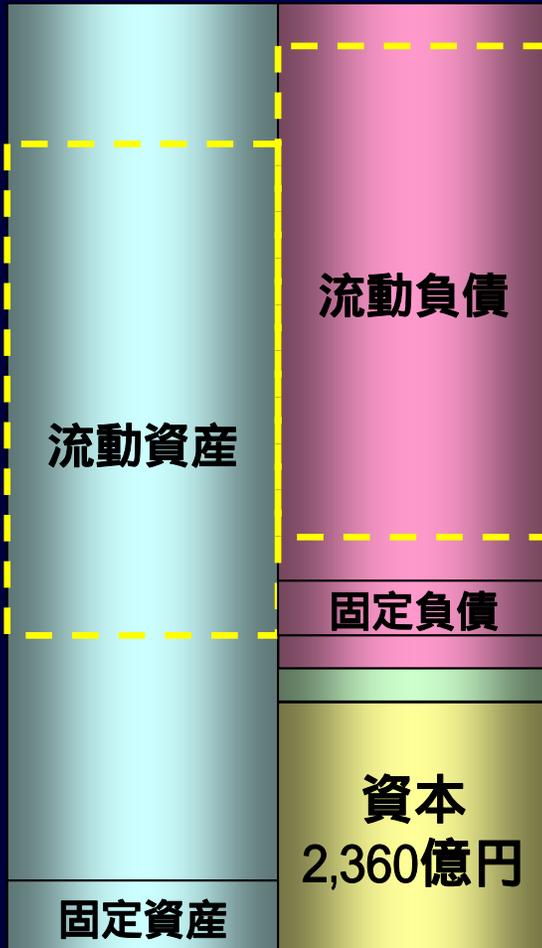
業績・財務構造の推移

一株あたりの価値を高めながら、さらなる成長ステージに向けた飛躍を目指す



自己資本比率 (2005年12月末)

総資産 1兆3,567億円



証券勘定

信用取引負債
有価証券担保借入金
受入保証金
預り委託証拠金
顧客預り金

証券勘定を除いた
自己資本比率は
45.4%

総資産 5,201億円



自己資本比率 17.4%

45.4%



ユーロ円建C Bの転換状況

(単位:百万円)

	2008年満期 ユーロ円建C B残存額 (転換率)	2009年満期 ユーロ円建C B残存額 (転換率)
当初発行額	13,000	20,000
2005年12月22日 大量行使プレス時点	6,070 (53.3%)	15,750 (21.3%)
2006年1月30日現在	5,940 (54.3%)	12,770 (36.2%)

C Bにかかる貸株は行われていません。

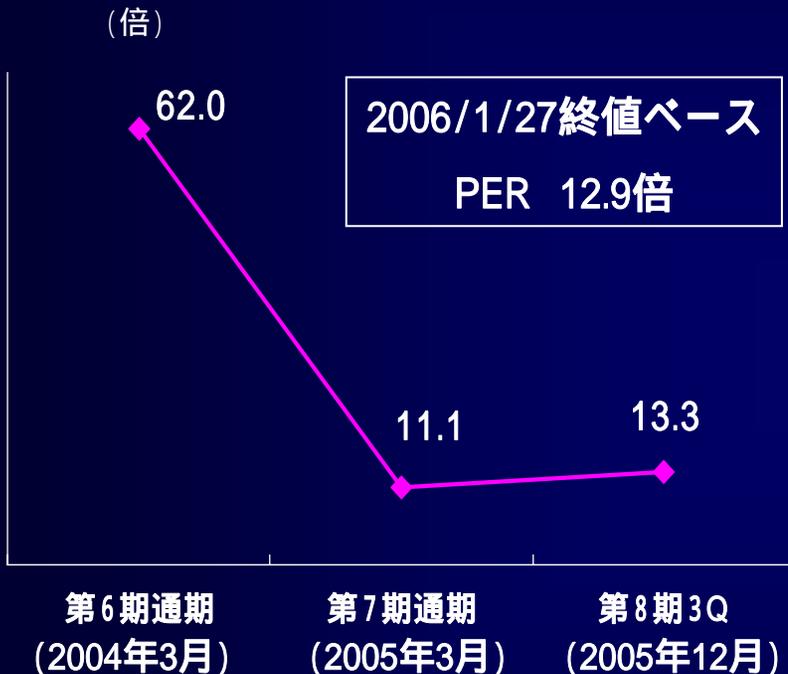
キャッシュ・フロー分析

(単位:億円)

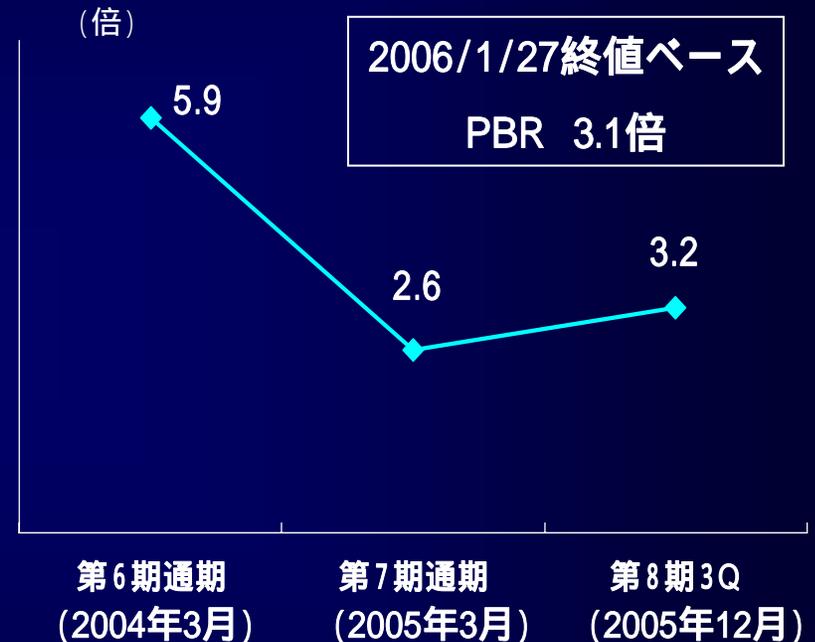
税金等調整前当期純利益	612		
営業投資有価証券の増減	532	→	ITファンド500口の取得等、 ファンド事業の拡大に伴う 先行出資
信用取引に関する資金の増減	587	→	信用取引を中心とした 証券業務の大幅な業容拡大
法人税の支払等	130		
営業活動によるキャッシュ・フロー	637		
投資活動によるキャッシュ・フロー	196	→	投資有価証券の取得等
財務活動によるキャッシュ・フロー	1,244	→	SBIホールディングス社債発行 による収入498億円、 イー・トレード証券の増資 による収入451億円等

PER・PBRの推移

PER (株価収益率) 1



PBR (株価純資産倍率) 2

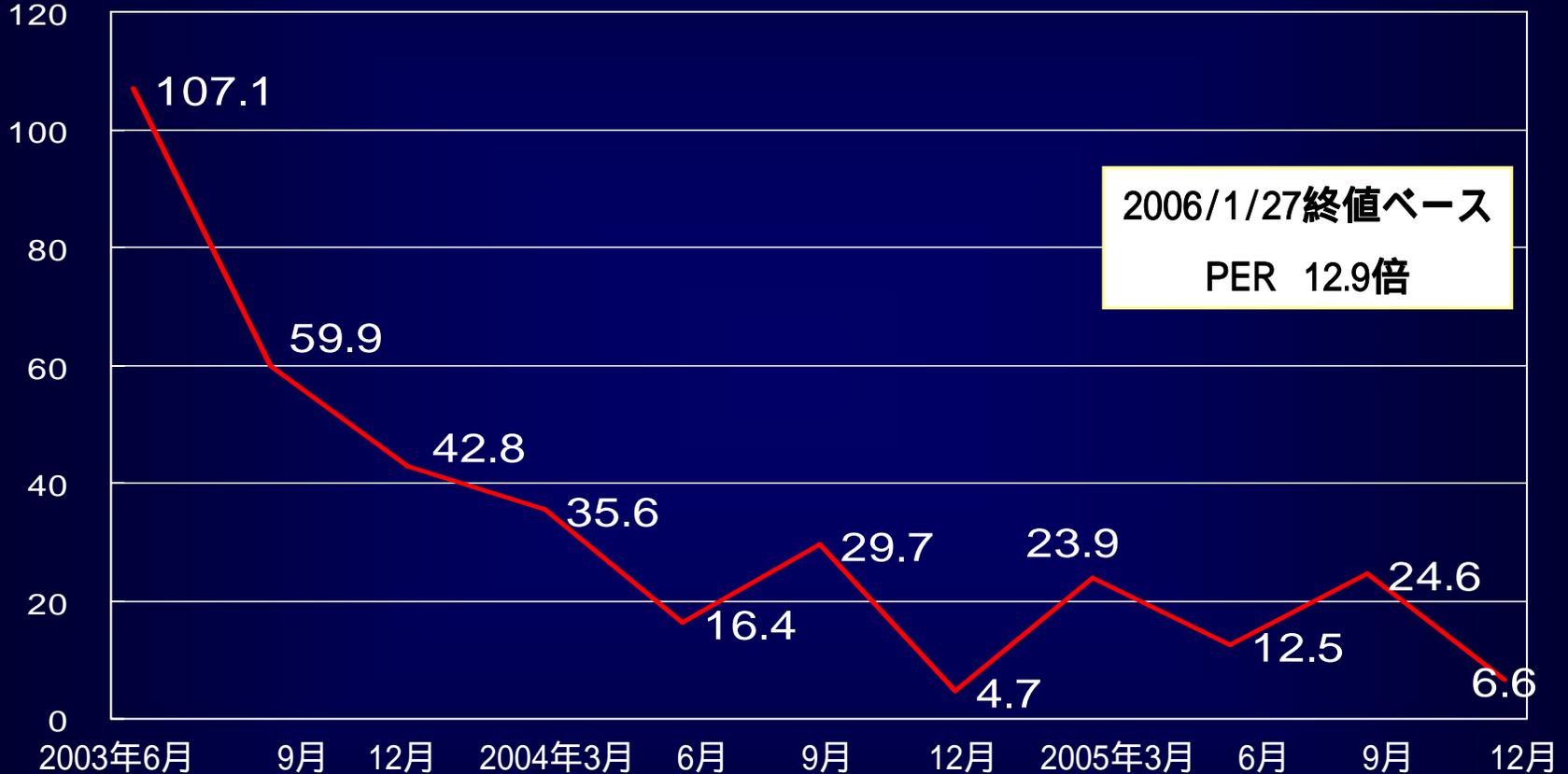


- 1 株価収益率 (第6期及び第7期) = 各期末当社東証終値 ÷ (一株あたり当期純利益)
 株価収益率 (第8期) = 第8期3Q末当社東証終値 ÷ (一株あたり第8期3Q純利益 × 4/3)
 株価収益率 (2006/1/27終値ベース) = 2006/1/27当社東証終値 ÷ (一株あたり第8期3Q純利益 × 4/3)
 なお第8期3Q期末株価終値は79,800円、2006/1/27株価終値は77,100円。
- 2 株価純資産倍率 = 各期末及び3Q末当社東証終値 ÷ (一株あたり期末及び3Q末純資産)
 株価純資産倍率 (2006/1/27終値ベース) = 2006/1/27当社東証終値 ÷ (一株あたり第8期3Q末純資産)

SBIのPER(株価収益率)の推移

現在のSBIのPERは、過去のトレンドから見ても低水準で推移

(単位:倍)



各四半期末の連結当期純利益を4倍した数字と各四半期末の発行済株式数により「1株利益」を計算し、各四半期末の株価と比較しています。

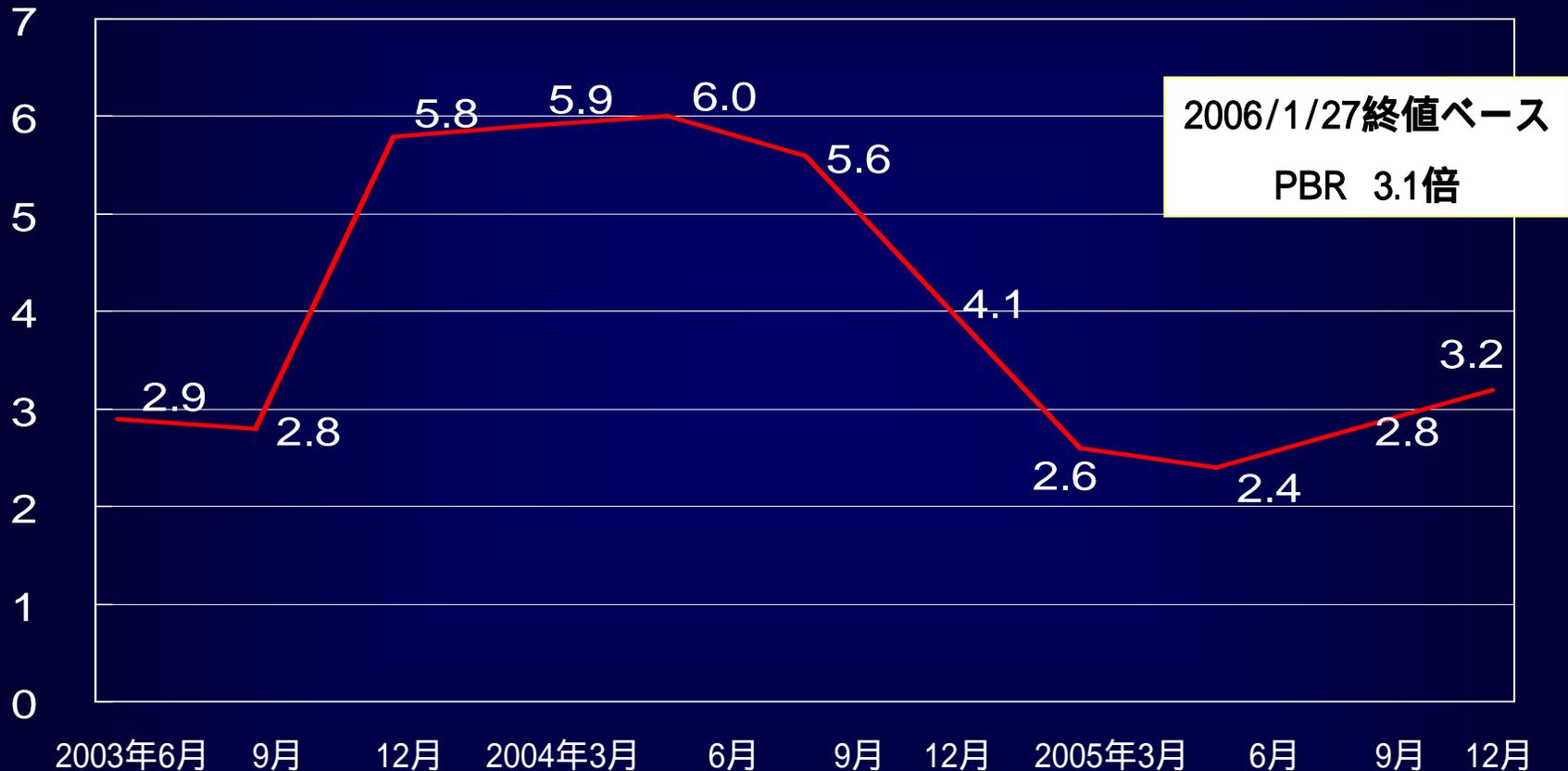
$PER = \text{株価} / \{ (\text{連結各四半期末の当期純利益}) \times 4 \div \text{発行済株式数} \}$

ただし株価収益率(2006/1/27終値ベース) = 2006/1/27当社東証終値 \div (一株あたり第8期3Q純利益 \times 4/3)

SBIのPBR(株価純資産倍率)の推移

現在のSBIのPBRは、過去のトレンドから見ても低水準で推移

(単位:倍)



各四半期末の連結株主資本と各四半期末の発行済株式数により「1株あたり純資産」を計算し、各四半期末の株価と比較しています。

$$\text{PBR} = \frac{\text{株価}}{\{(\text{各四半期末の連結株主資本}) \div \text{発行済株式数}\}}$$

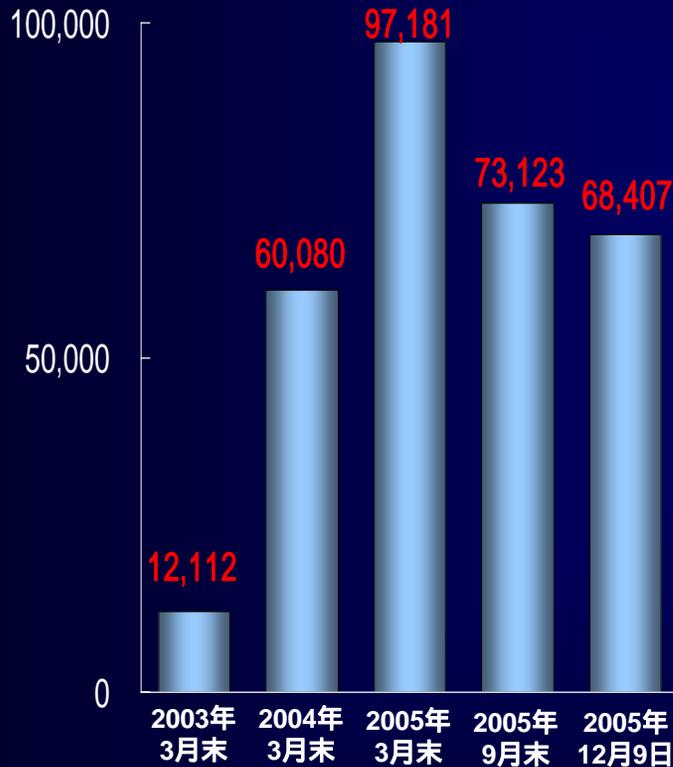
株価純資産倍率(2006/1/27終値ベース) = 2006/1/27当社東証終値 \div (一株あたり第8期3Q末純資産)

株主構成の推移

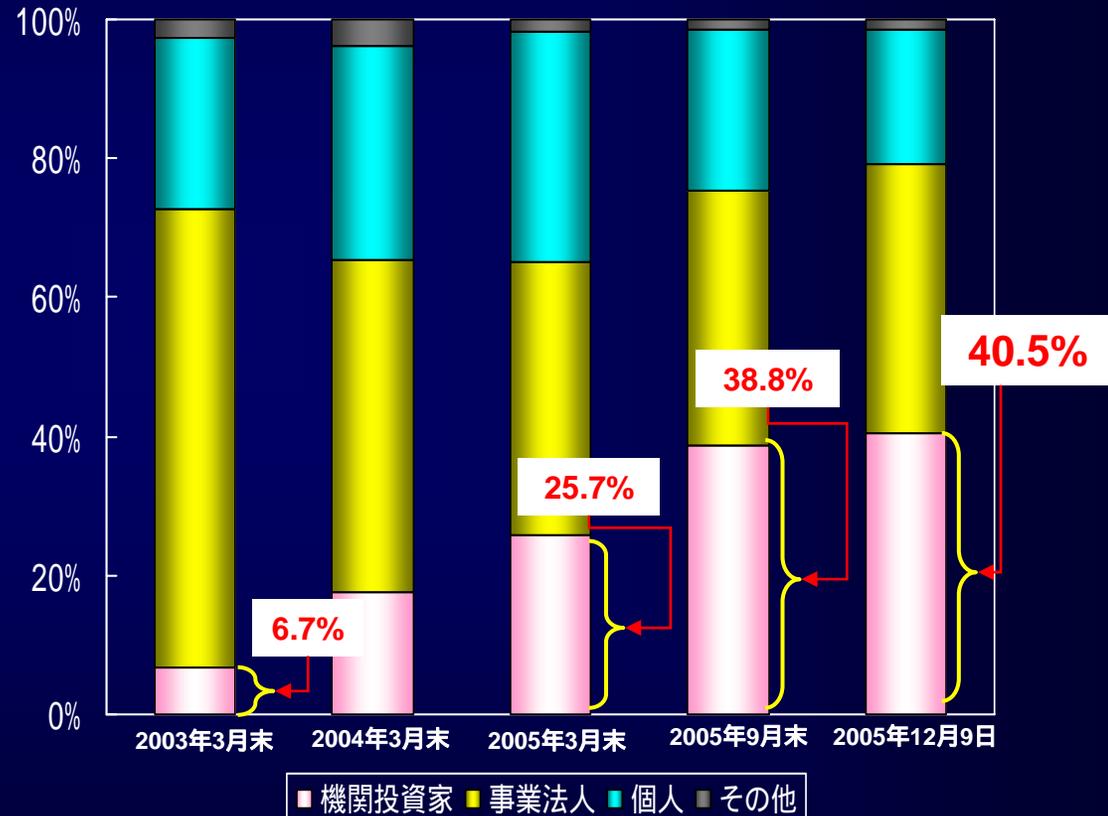
機関投資家の比率は、2005年3月末25.7%から
2005年12月9日40.5%へと上昇

(単位:名)

株主数の推移



株主構成比率の推移

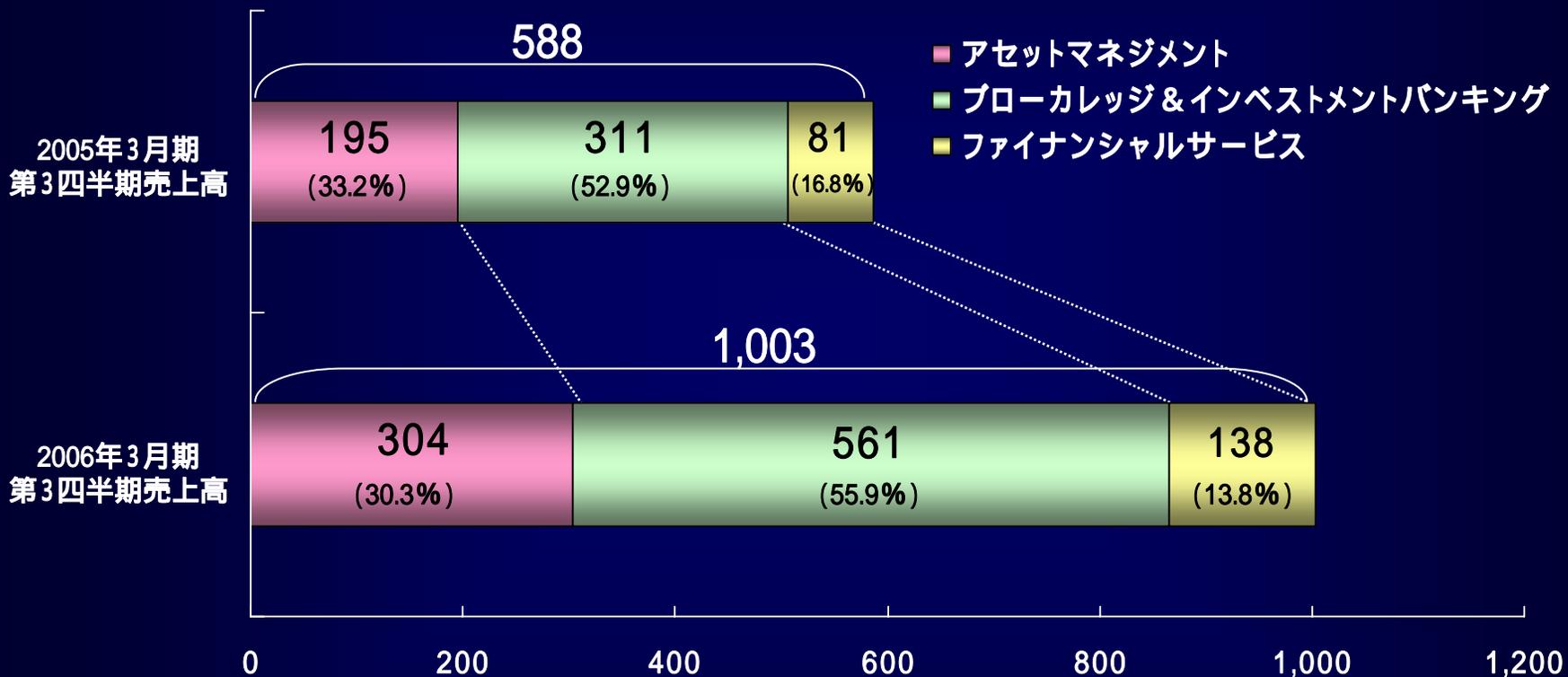


(2) 主要ビジネスラインの事業概況

セグメント別構成

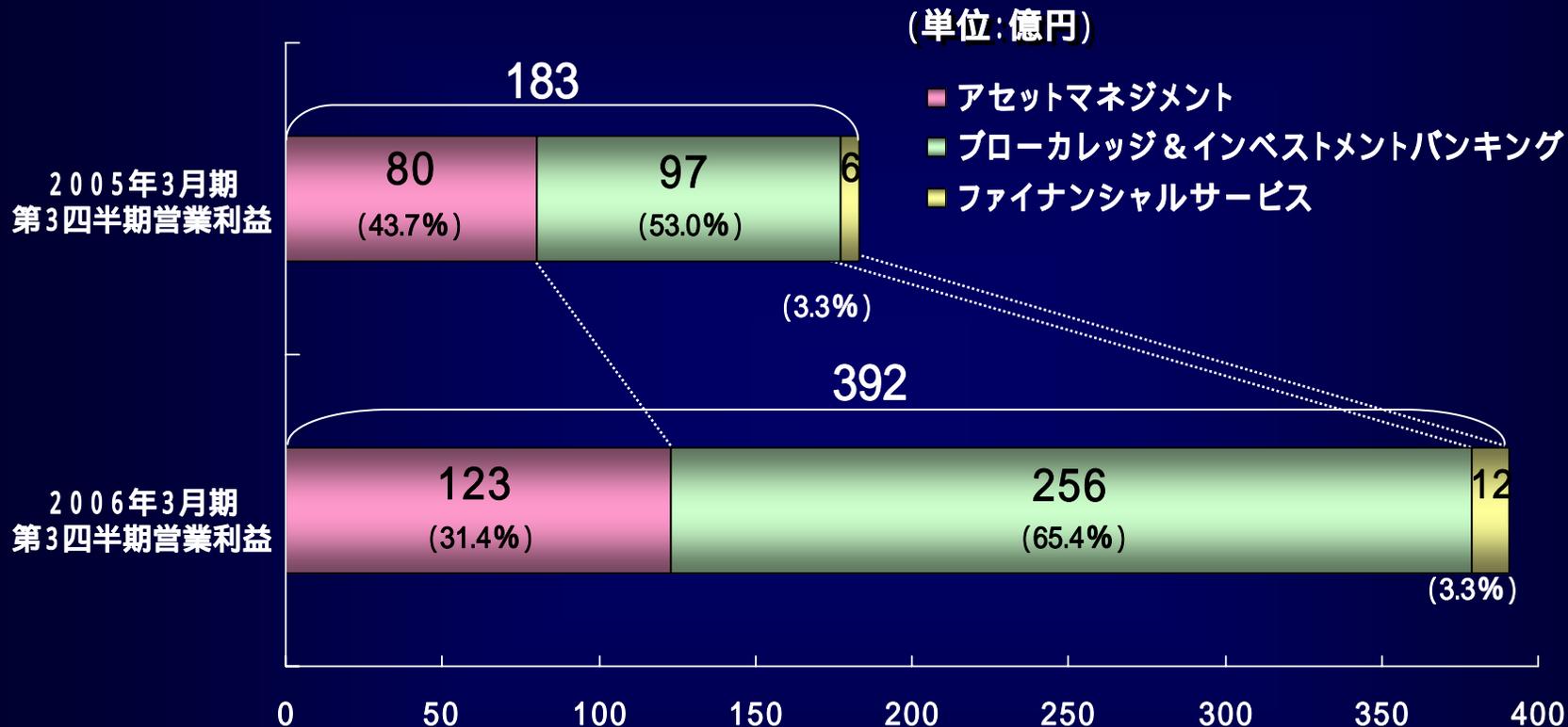
セグメント別売上高の構成比較

(単位:億円)



SBIパートナーズの連結業績につきましては、2005年9月以降の業績を加算しております。

セグメント別営業利益の構成比較



SBIパートナーズの連結業績につきましては、2005年9月以降の業績を加算しております。

本項における営業利益につきましては、連結消去および全社費用控除前の数字であり、その合計値は連結決算業績における営業利益とは一致していません。

アセットマネジメント事業

アセットマネジメント事業のハイライト

- ・ ITファンドの時価純資産は過年度支払報酬等232億円控除後で3,034億円 (12月末)に達し、当初出資金1,505億円に対して約2.0倍の水準となった。同時価純資産を基準として償還した場合、今後連結営業利益へ約882億円 (売却益639億円、成功報酬243億円程度)の寄与が想定される。(当初出資金の1.5倍超過部分に対する成功報酬は、キャピタルゲインの20%から35%にテーブルが変更)
- ・ コンテンツファンドは成功報酬約7億円を計上し、2月末に当初出資元本に相当する94億円の現金分配を実施する予定。
- ・ ITファンド後を見据え、ブロードバンドファンド(535億円)・メディアファンド(200億円)に次ぎ 『モバイルファンド』を300億円規模で設立へ。

未公開株 ・ の好調なパフォーマンスを背景に、 は210億円を募集完了。
SBIアセットマネジメントにおける運用資産総額は12月末1,195億円となった。

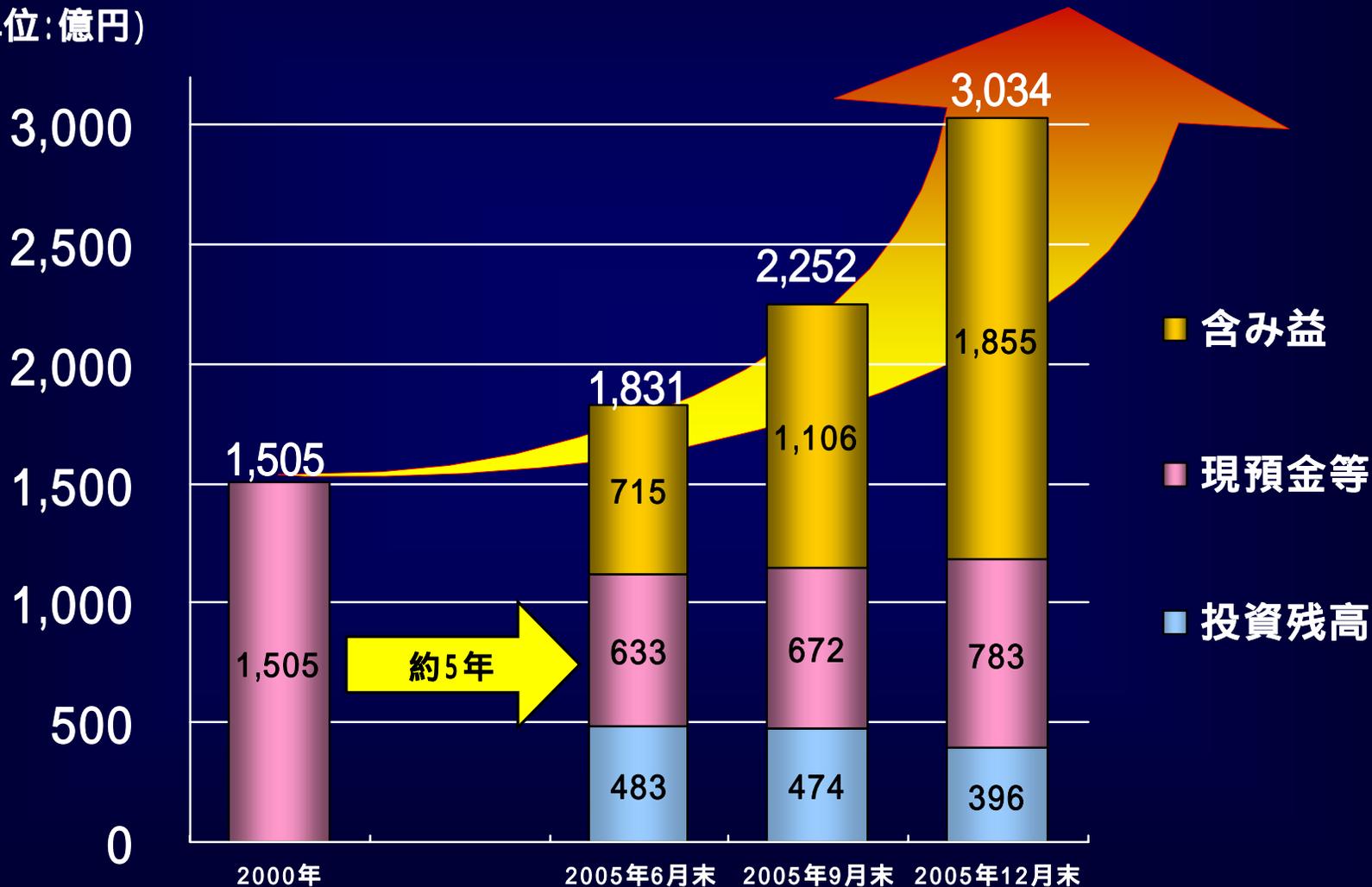
SBI・LBO・ファンド1号の時価は当初出資金50億円対比約1.9倍の96億円 (12月末)、企業再生ファンド一号の時価は当初出資金104億円対比約1.5倍の154億円 (同)となった。メザニンファンドの投資収益率は年率14.9%。

) ソフトバンク・インベストメント(株)

時価純資産が著増する ITファンド

当初出資金の2倍を超過する水準に到達

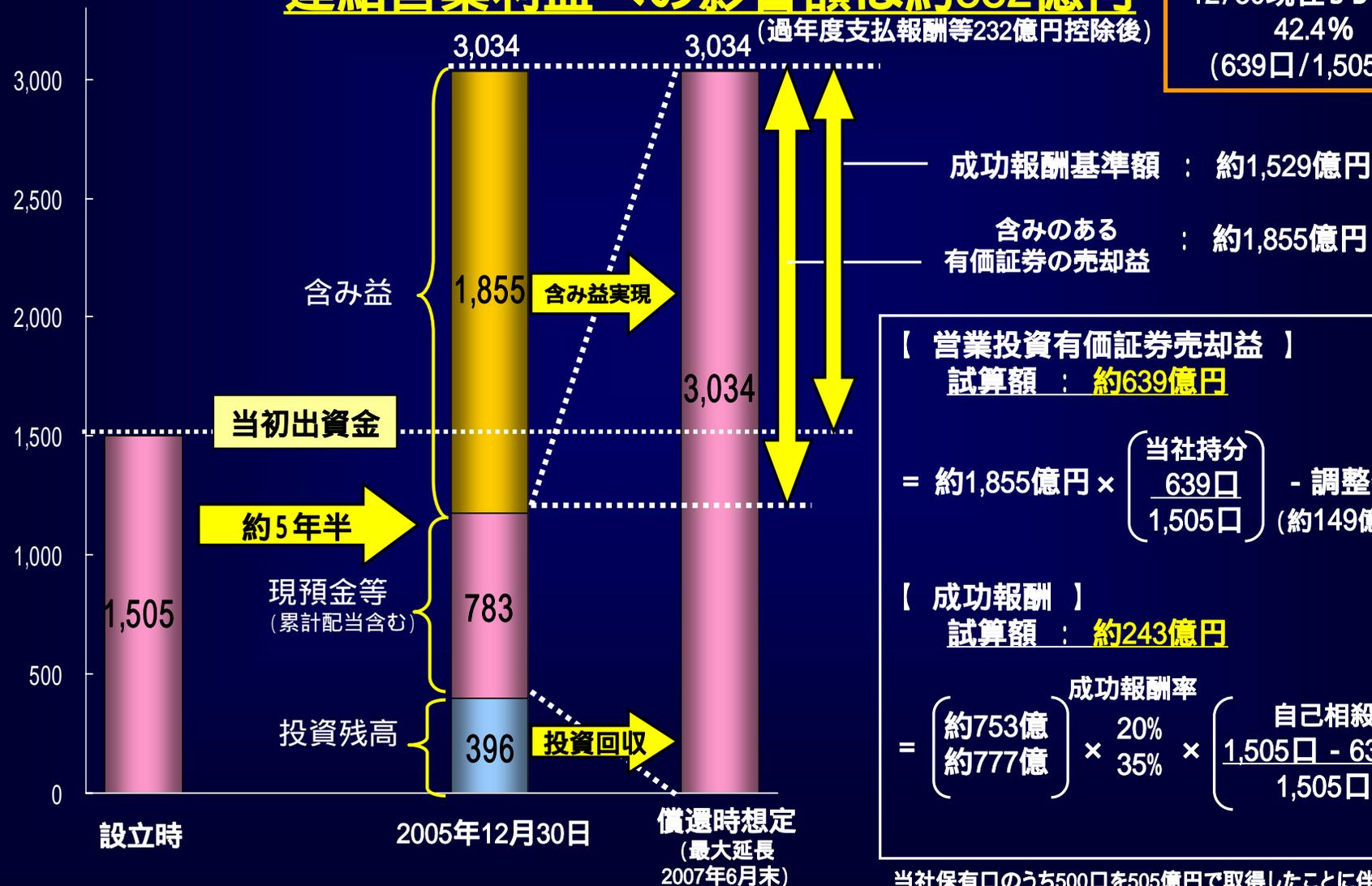
(単位:億円)



ITファンドがもたらす連結業績への影響額(試算)

現在の時価純資産で償還が実現した場合の 連結営業利益への影響額は約882億円

(単位:億円)

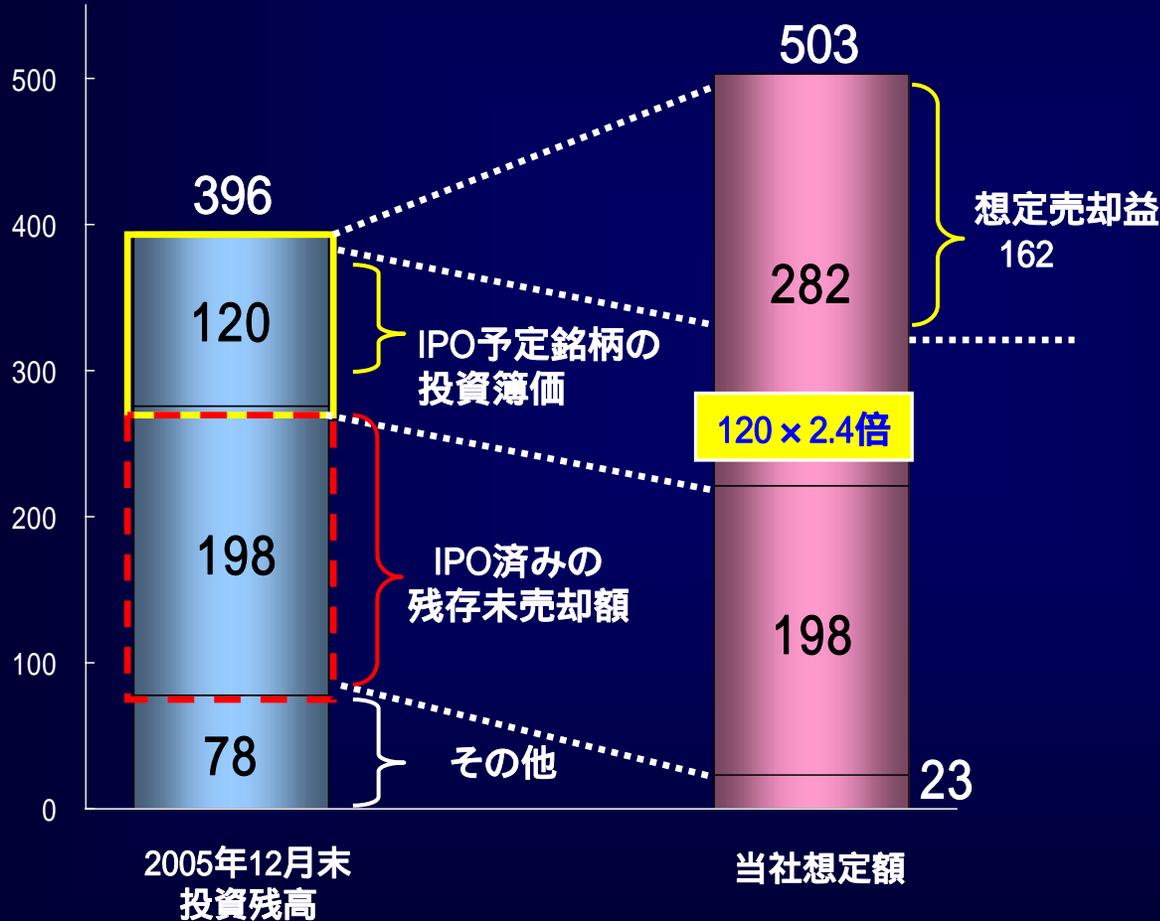


IPO予定先のパフォーマンス(ITファンド)

更なる含み益・実現益の積み上げが想定される

(単位:億円)

(2007年3月期～2008年3月期)



連結営業利益

前頁の前提による試算

試算額 : 約882億円
 成功報酬 243億円
 営投売却益 639億円



【当社想定額】

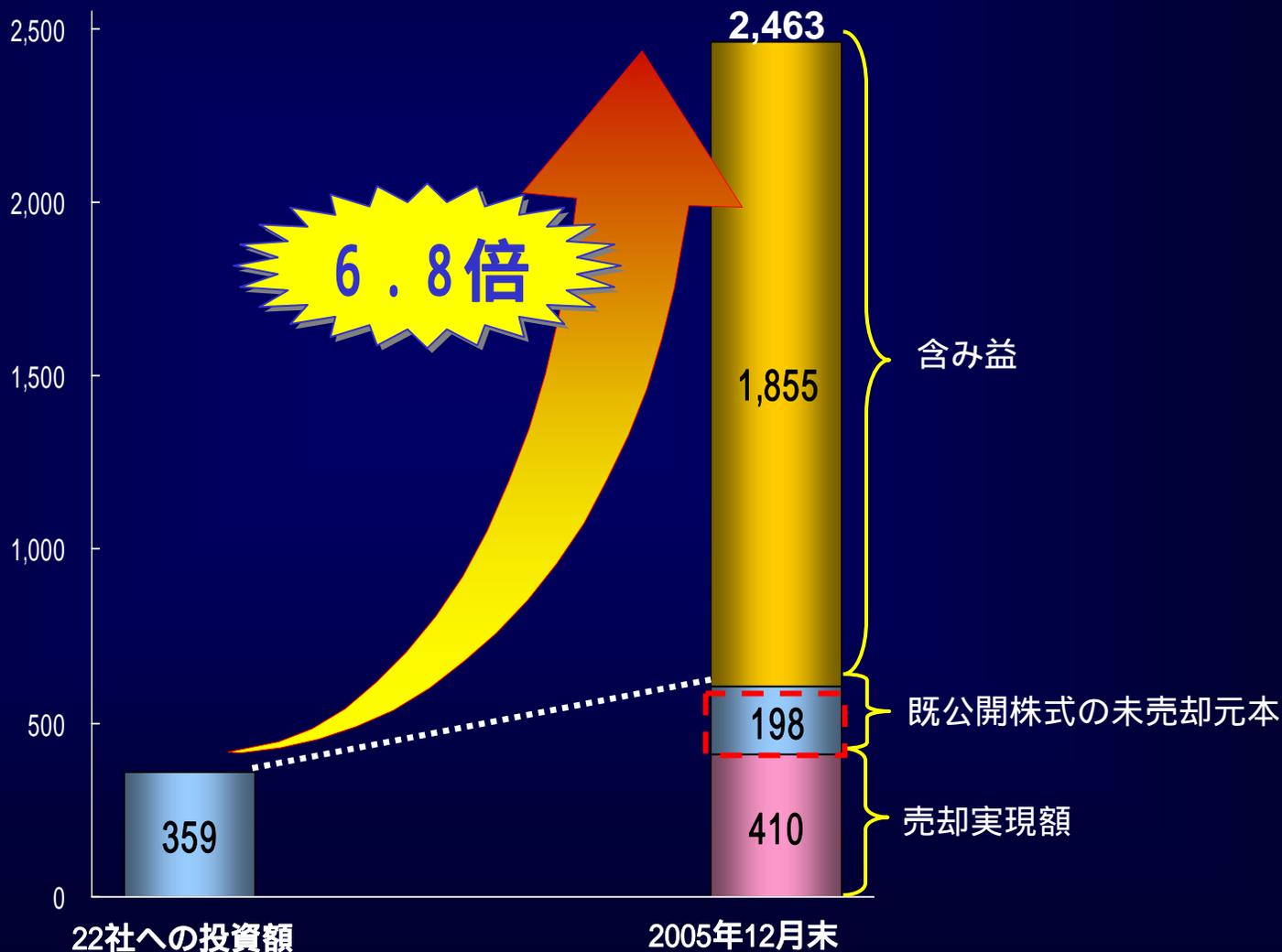
IPO予定投資簿価120億円が2.4倍となるケース

試算額 : 約949億円
 成功報酬 265億円
 営投売却益 684億円

IPO投資先のパフォーマンス (ITファンド実績)

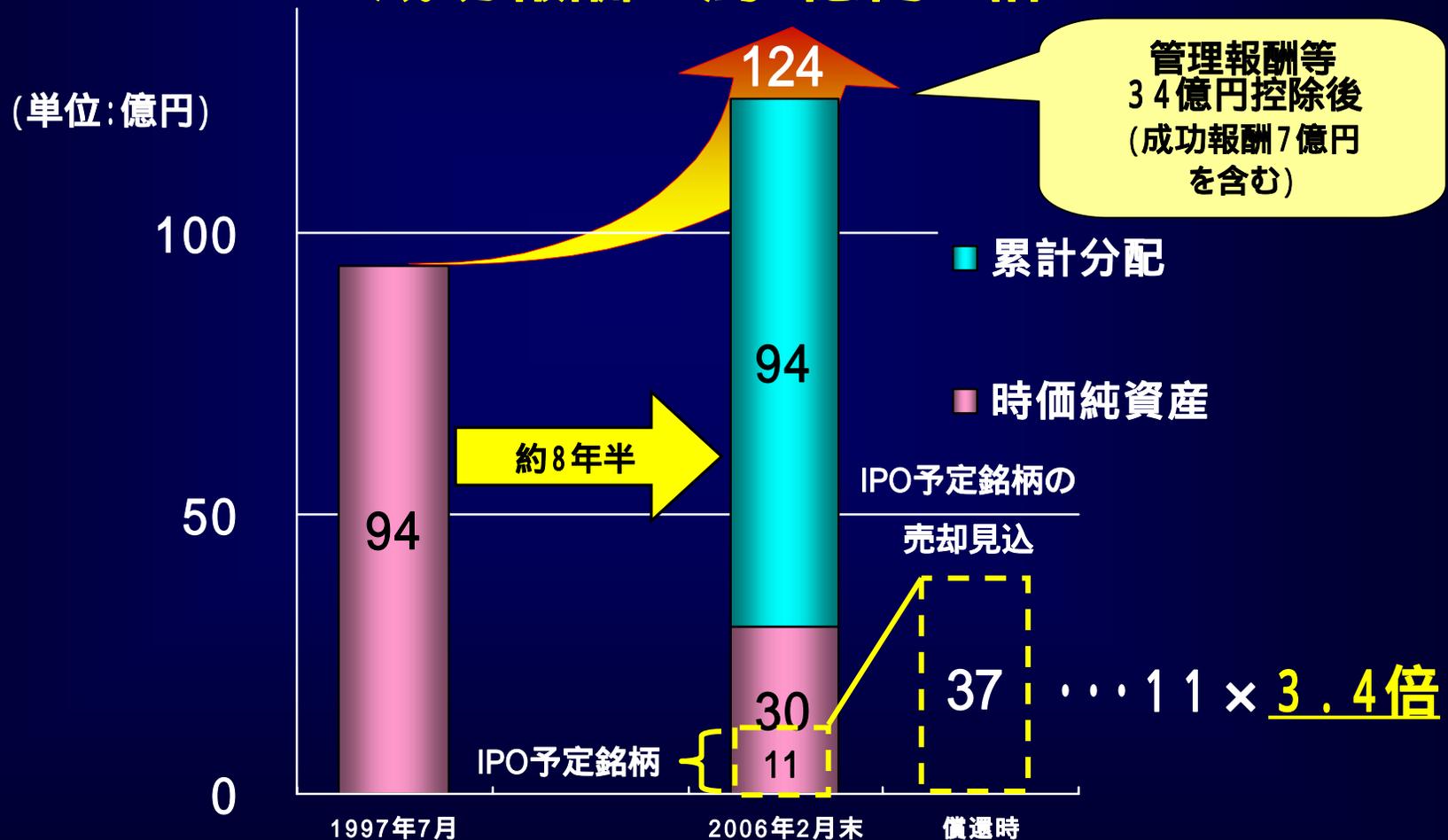
2004年1月～2005年12月にITファンドから
IPOした22社は投資額の6.8倍に

(単位: 億円)



コンテンツファンドの収穫期到来

収穫期に入り、元本に相当する94億円の分配を決定
成功報酬は約7億円を計上



新規公開又はM & AによるExit社数 (直接投資分及び全運営ファンド合算)

2006年 1月26日現在

	既公開		公開予定
	~ 2004年12月	2005年1月 ~ 12月	2006年1月 ~ 12月
既公開および 公開予定社数	77社 (内、海外38社)	12社 (内、M&A1社)	20社*

2005年1月 ~ 12月に以下の12社がIPO又はM & Aを行っております

- 2005年 2月 3日 Xinyi Glass Holdings Ltd.
- 2005年 5月 27日 ルート株
- 2005年 2月 8日 MediciNova, Inc
- 2005年 6月 27日 株アドバンスト・メディア
- 2005年 2月16日 共立印刷株
- 2005年 7月 12日 株ガイアックス
- 2005年 4月20日 極東証券株
- 2005年 8月 3日 株ブロードバンドタワー
- 2005年 4月21日 日本通信株
- 2005年 9月 27日 株ノエル
- 2005年 5月 3日 Morningstar, Inc.
- 2005年12月13日 株ビジネス・ブレイクスルー

大証ヘラクレス市場の新規上場申請受付停止(2005年5月)の影響により

2005年度は20社を下回ったものの、2006年度は回復を見込む

* IPO予定社数には、毎週開催しております「案件会議」での検討に基づき、投資先5段階評価において最上位に区分されたものが含まれておりますが、これら投資先の評価およびIPO予定の見通しは当社独自判断に基づいたものであり、今後のIPOを保証するものではありません。

・IPO済みおよびM & Aの社数はすでに売却済みのものを含みます。

新規公開した投資先のパフォーマンス

2005年1月～2005年12月

投資先企業名	公開時期	公募価格(A)	初値(B)	上昇率(%) (B/A)	2005/12/30 終値(C)	上昇率(%) (C/A)	公募価格対 簿価比(倍)	初値対 簿価比(倍)
Xinyi Glass Holdings Ltd.	2月	2.00	2.00	100.0	1.77	88.5	1.5	1.5
MediciNova,Inc.	2月	400	405	101.3	133	33.3	2.3	2.3
共立印刷(株)	2月	270	350	129.6	502	185.9	2.2	2.8
極東証券(株)	4月	700	961	137.3	1,796	256.6	1.9	2.7
日本通信(株)	4月	50,000	70,000	140.0	147,000	294.0	0.7	1.0
Morningstar,Inc.	5月	18.50	18.66	100.9	34.64	187.2	1.5	1.6
(株)アドバンスト・メディア	6月	160,000	700,000	437.5	1,100,000	687.5	1.5	6.7
(株)ガイアックス	7月	300,000	1,200,000	400.0	478,000	159.3	1.7	6.9
(株)ブロードバンドタワー	8月	210,000	606,000	288.6	767,000	365.2	7.0	20.2
(株)ノエル	9月	580,000	1,350,000	232.8	2,680,000	462.1	5.8	13.5
(株)ビジネス・ブレイクスルー	12月	200,000	400,000	200.0	395,000	197.5	4.0	8.0

この他M&Aによりルート(株)が公開株となっております。
平均は単純平均で算出しております。

平均
206%

平均
265%

第3四半期(累計)の投資実績(全ファンド)

ブロードバンドファンド等、新設ファンドからの投資が本格化

	2005年4月～12月		
	国内	海外	合計
投資社数 (社)	65 (27)	4 (5)	69 (32)
投資金額 (億円)	307 (128)	48 (23)	355 (151)

・ ()内は、前年同期間(2004年4月～2004年12月)の投資社数及び投資金額であります。

・ 合計投資件数のうち、新規投資は56社 315億円(26社 94億円)、既存投資先への追加投資は13社 40億円(6社 57億円)であります。

) SBIアセットマネジメント(株)

未公開株を組み入れた画期的な投資信託の提供

未公開株組入ファンド

運用開始	2000年7月
償還日	(2006年3月償還予定)
2006/1/20現在 基準価格	<u>21,941円</u>

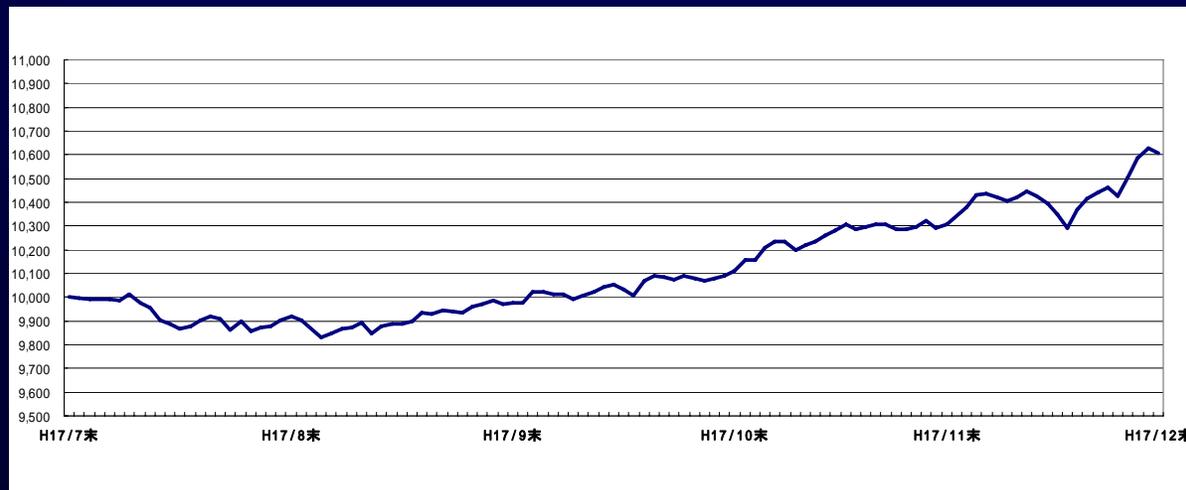
未公開株組入ファンド (償還済)

運用開始	2001年6月
償還日	2005年10月12日
最終償還価格	<u>19,660円</u>



・ の好調なパフォーマンスを背景に、
未公開株組入ファンド は210億円を募集完了

未公開株組入ファンド、設定来の1口当たりの純資産価格推移(単位:円)



2005年12月末現在
10,606円

運用資産の積み上げ ~ SBIアセットマネジメント ~

続々と新商品を提供し、運用資産を拡大

(単位:億円)

- 投資顧問
- 投資信託
- 投資法人



2005年 2月設定
12月末基準価額: 16,144円

基準価額 16,000円突破!
純資産総額 500億円
2005年12月29日現在

jnext

2005年 7月設定
12月末基準価額: 10,606円

SBI 未公開株組入ファンドⅢ (愛称)

ベイオフ対策キャンペーン対象投資

SBI グローバル・セレクション・ファンド / SBI ホンダ系プライベート・エクイティ・ファンド等
と共同運用する「未公開株組入ファンド」は、国内市場に先行してIPOやMBO等の機会を捉え、高成長企業への投資機会を提供します。

只今 仮申込受付中! ~ 6/30(木) 18:00/予定 IPOチャレンジポイントもプレゼント!

2005年 10月設定
12月末基準価額: 16,435円

Yahoo! 証券窓口オープン記念商品

ファンドを通じて
ソフトバンクグループ企業へ投資

ソフトバンクグループ
株式ファンド

2005年 12月設定
12月末基準価額: 10,085円

愛称: jcool

SBI 小型成長株ファンド ジェイクール
追加型株式投資信託 / 国内株式型 (一般型)

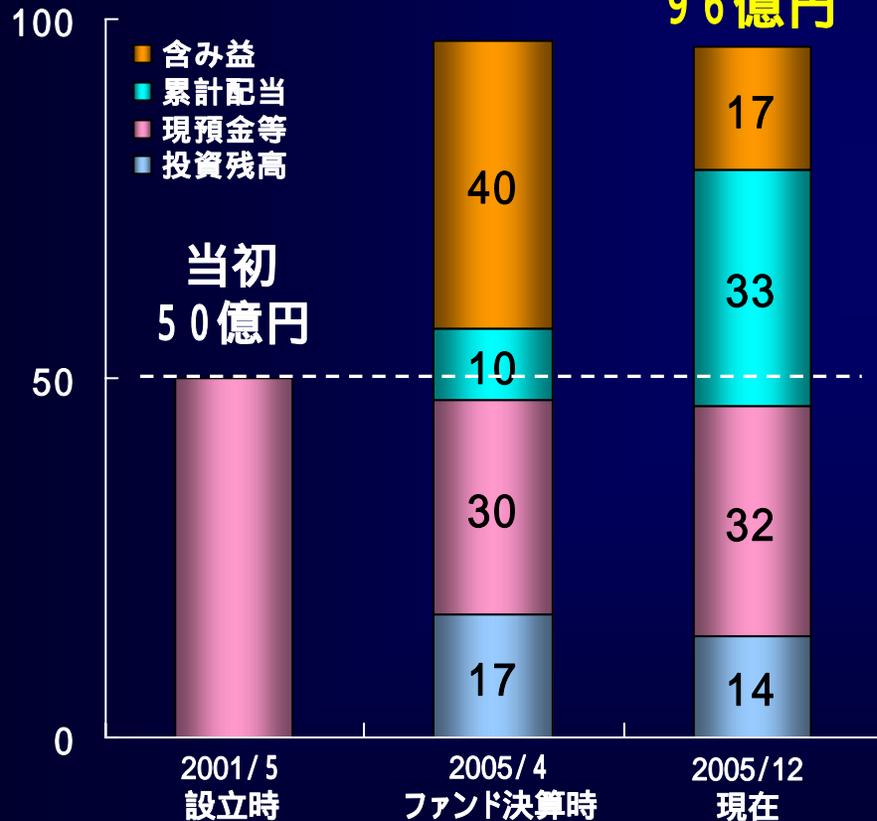
) SBIキャピタル(株)

LBOファンド・企業再生ファンドの状況

SBI・LBO・ファンド1号

(単位:億円)

現在
96億円

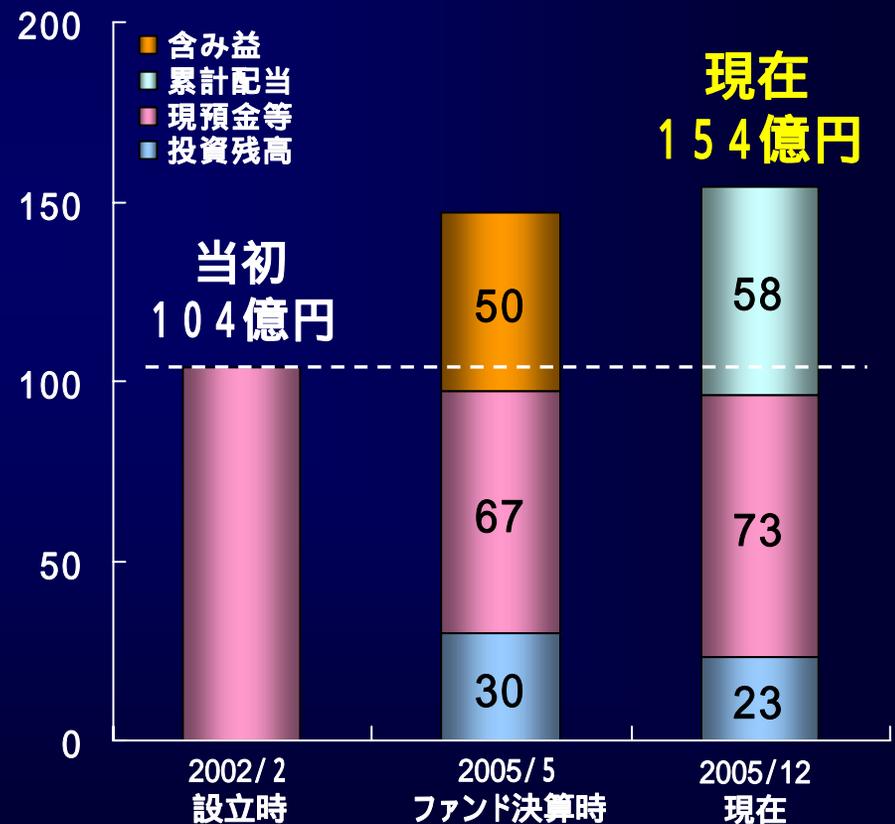


企業再生ファンド一号

投資事業有限責任組合

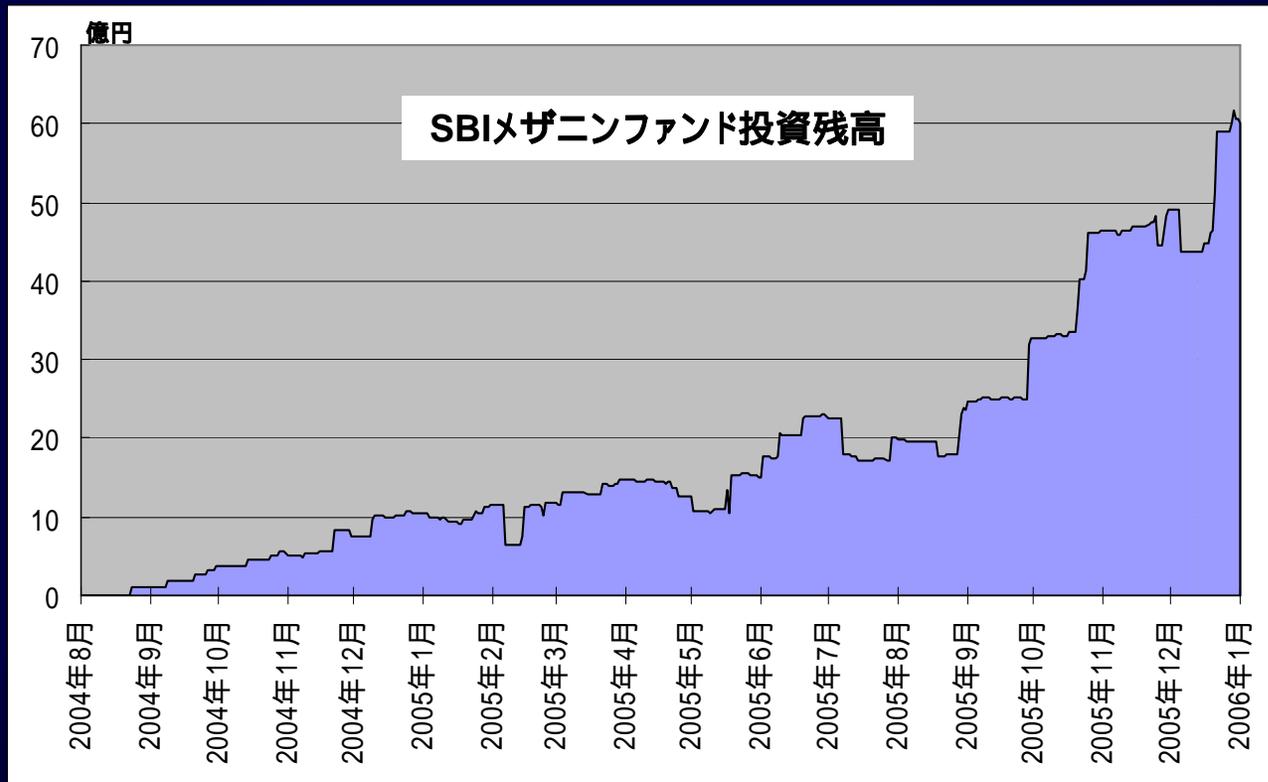
(単位:億円)

現在
154億円



SBIメザニンファンドの状況

12月末時点のメザニンファンド投資残高は9月末から86%増加し、60億円を突破。
残高増にもかかわらず、2005年度9ヶ月間の投資収益率は年率14.9%を維持。
SBIメザニンファンド2号は第3四半期中に新たな投資家を加えて83億円に増額。
第3号ファンド(20億円予定)は3月に組成の見込み。



） アセットマネジメント事業の更なる拡大

部門目標：数年後に運用総額1兆円を目指す

- ・パフォーマンスの積上げによる時価純資産の増加
- ・極めて良好なトラックレコードを背景とした、ベンチャーファンド・投資信託・メザニンファンド等の新規設立
- ・不動産ファンド等における自己資金の積極的投入

現在のSBIグループファンド運用規模 (2005年12月末現在)

総額 5,249億円 (ノンリコースローンを含む総額は**5,649億円**)

IT・バイオ ファンド
合計 3,684億円

ITファンド	2,459億円
BBファンド	514億円
バイオファンド	99億円
その他	612億円

バイアウト・メザニン ファンド
合計 245億円

LBOファンド	61億円
企業再生ファンド	96億円
メザニンファンド	80億円
その他	8億円

投資信託・投資顧問等
合計 1,195億円

投資信託	908億円
投資顧問	239億円
投資法人	48億円

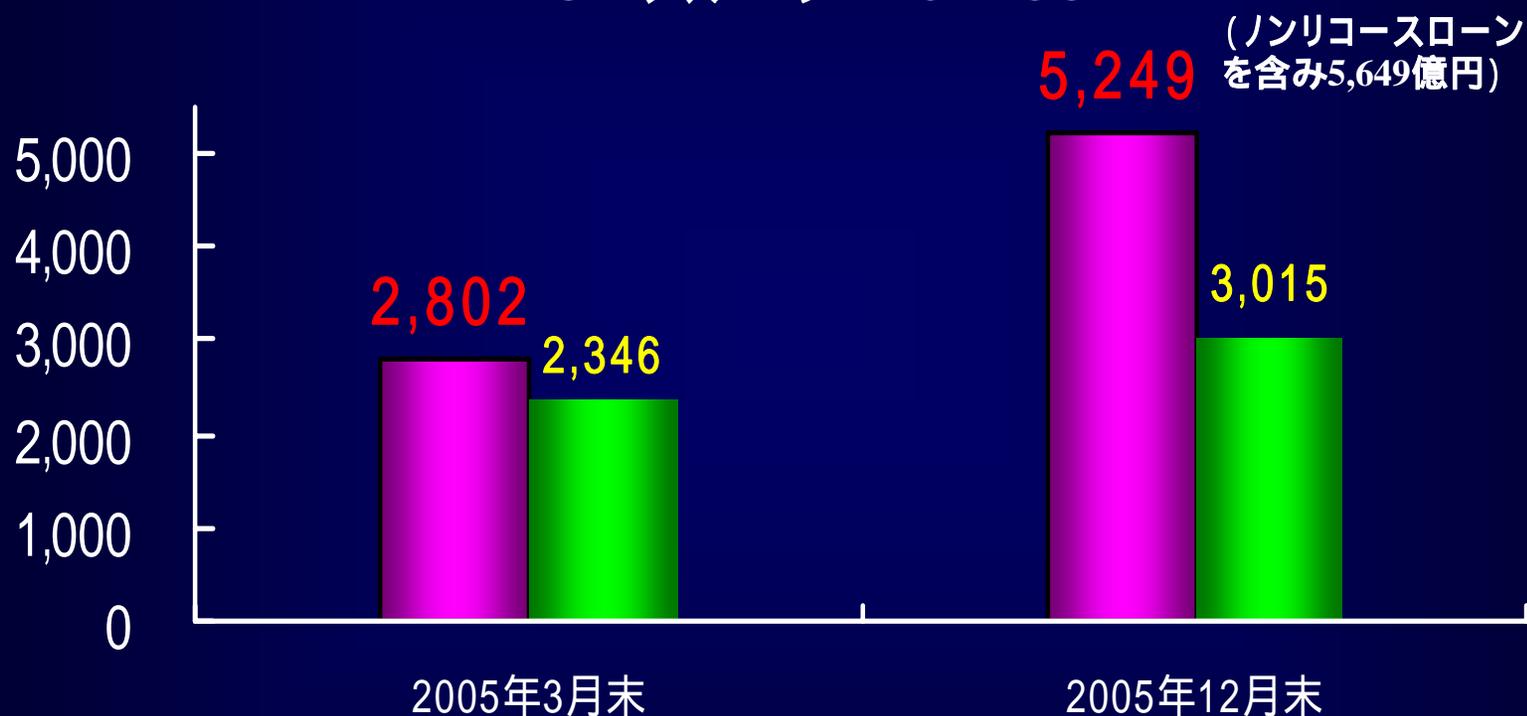
不動産 ファンド
合計 125億円 (ノンリコースローン
を含み525億円)

A号ファンド	45億円
B号ファンド	45億円
その他	35億円

SBIグループとJAFCOとの運用規模比較

(単位:億円)

■ SBIグループ ■ JAFCO



JAFCO社運用規模 = (コミットメント額 - 払込累計金額) + 純資産額
出所: 同社2006年3月期第3四半期決算補足資料

「モバイルファンド」 新規設立へ

インターネット産業
の市場規模

モバイル関連企業へ
投資

SBI
ピーピー・モバイル
投資事業有限責任組合

ブロードバンド関連企業へ投資

SBI ブロードバンドファンド

国内のインターネット
関連企業へ投資

SBI ピーピー・メディアファンド

米国のインターネット
関連企業へ投資

ソフトバンク・インターネット
テクノロジーファンド

上限:320億円

申込期間:2005年1月30日~3月29日

ソフトベン2号
ソフトバンクベンチャーズ

時間
ユビキタスへ

95 ~ 96

99' ~ 00'

04 ~ 05

06 ~

米国のインターネット産業成長期 日本インターネット産業成長期

ブロードバンド産業成長期

モバイル&ワイヤレス産業成長期

SBIグループの
投資フェーズ

米国企業向け
ファンド設立

インターネットへ

ブロードバンドへ

メディアへ

モバイル&ワイヤレス

SBIグループは今後、年金資金の取り込みも目指す

証券関連事業

(2) 証券関連事業のハイライト

イー・トレード証券が営業収益・利益ともに5四半期連続で過去最高を更新 第3四半期単独の経常利益率は54.4%となる

当第3四半期累計で新たに341,931口座を新規に獲得、**2006年1月25日に100万口座を突破!** 12月単月の**株式委託売買代金は10兆円超となる**
2005年12月に150万口座対応の取引システムを構築

システム安定性維持を最重要の課題として、常に安定した迅速な取引環境の提供を図り続ける。

2005年12月実施の公募増資により約490億円(手取額)を調達(公募に関連する第三者割当増資を含む)、積極的な引受業務の展開・信用取引の拡大が可能となった

今期1株あたり利益配当金は、前期2,300円(記念配当を含む)から4,800円(分割考慮前)へと**2倍以上の実質大幅増配を予定** (2006年2月1日株式分割考慮後1,600円)

SBI証券は業績が急拡大し、第3四半期単独で上場来最高益を更新 **2005年12月は月次ベースで過去最高益を更新**

SBIフューチャーズ(オンライン商品先物)の口座数増加が加速し、12月末2,804口座に **マーケットシェアも拡大**

) イー・トレード証券(株)

イー・トレード証券 連結業績

(単位:百万円)

	2006年3月期 3Q (2005年4月 ~ 2005年12月)
営業収益	40,590
純営業収益	37,695
営業利益	19,480
経常利益	19,540
当期純利益	10,719

2005年3月期第4四半期より連結財務諸表を作成しているため前年同期比は記載しておりません。

イー・トレード証券 単独業績

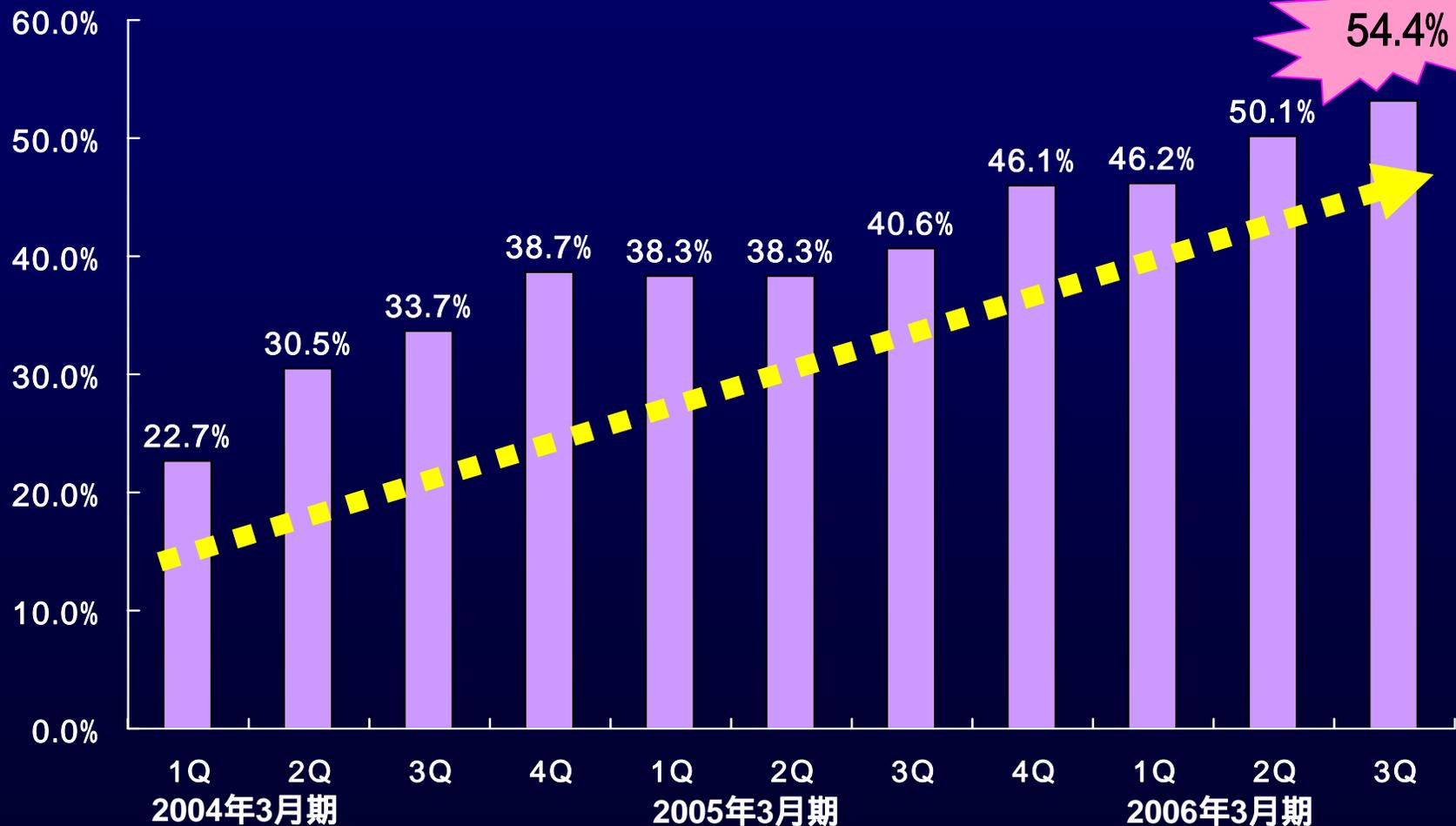
四半期通期ベースで収益面、利益ともに過去最高を更新
中間期を上回る増加率を達成

(単位:百万円、%)

	2005年3月期 3Q (2004年4月～2004年12月)	2006年3月期 3Q (2005年4月～2005年12月)	前年同期比 増減率
営業収益	18,582	37,128	+99.8
純営業収益	17,058	34,362	+101.4
営業利益	7,124	18,816	+164.1
経常利益	7,266	18,876	+159.8
当期純利益	3,829	10,254	+167.8

収穫逡増のビジネスモデルを実現

イー・トレード証券の経常利益率の推移



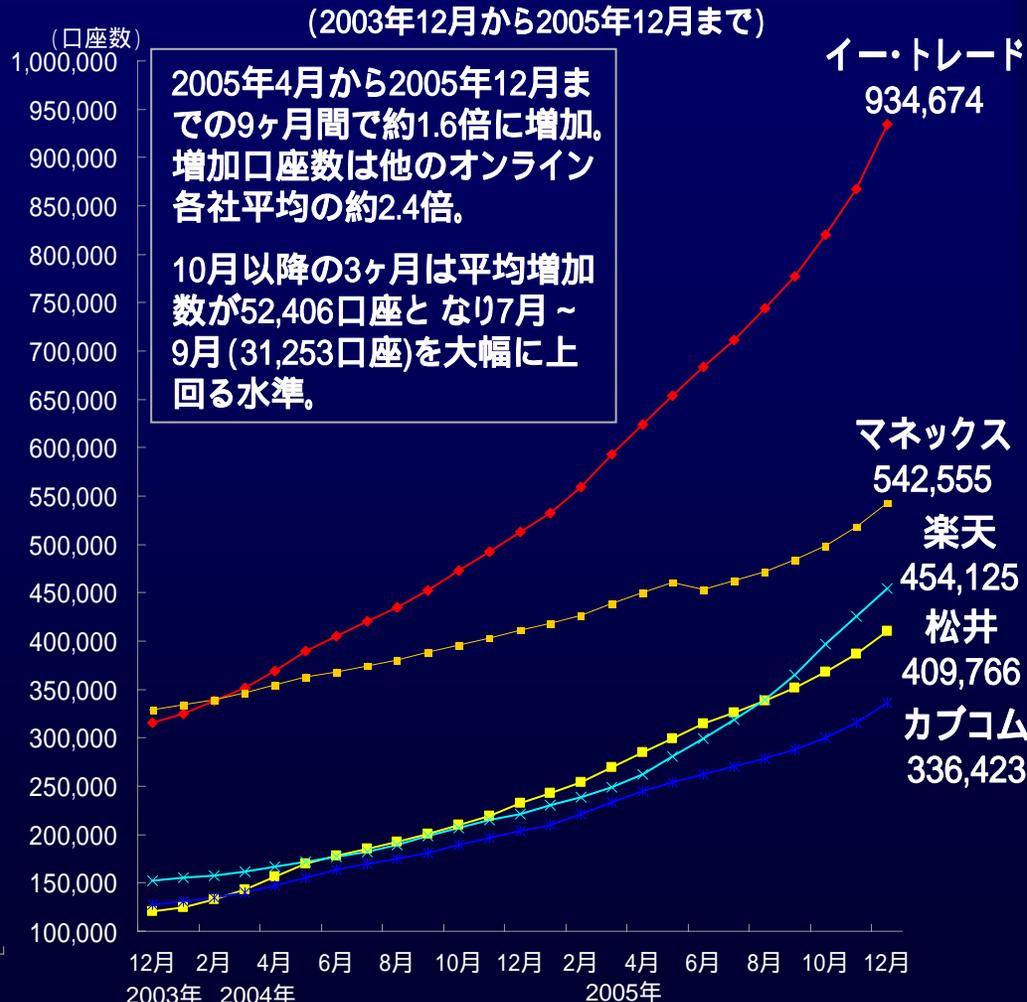
経常利益 ÷ 営業収益にて算出

主要オンライン証券の口座数比較

主要オンライン証券5社の口座数



オンライン証券主要5社の口座数推移



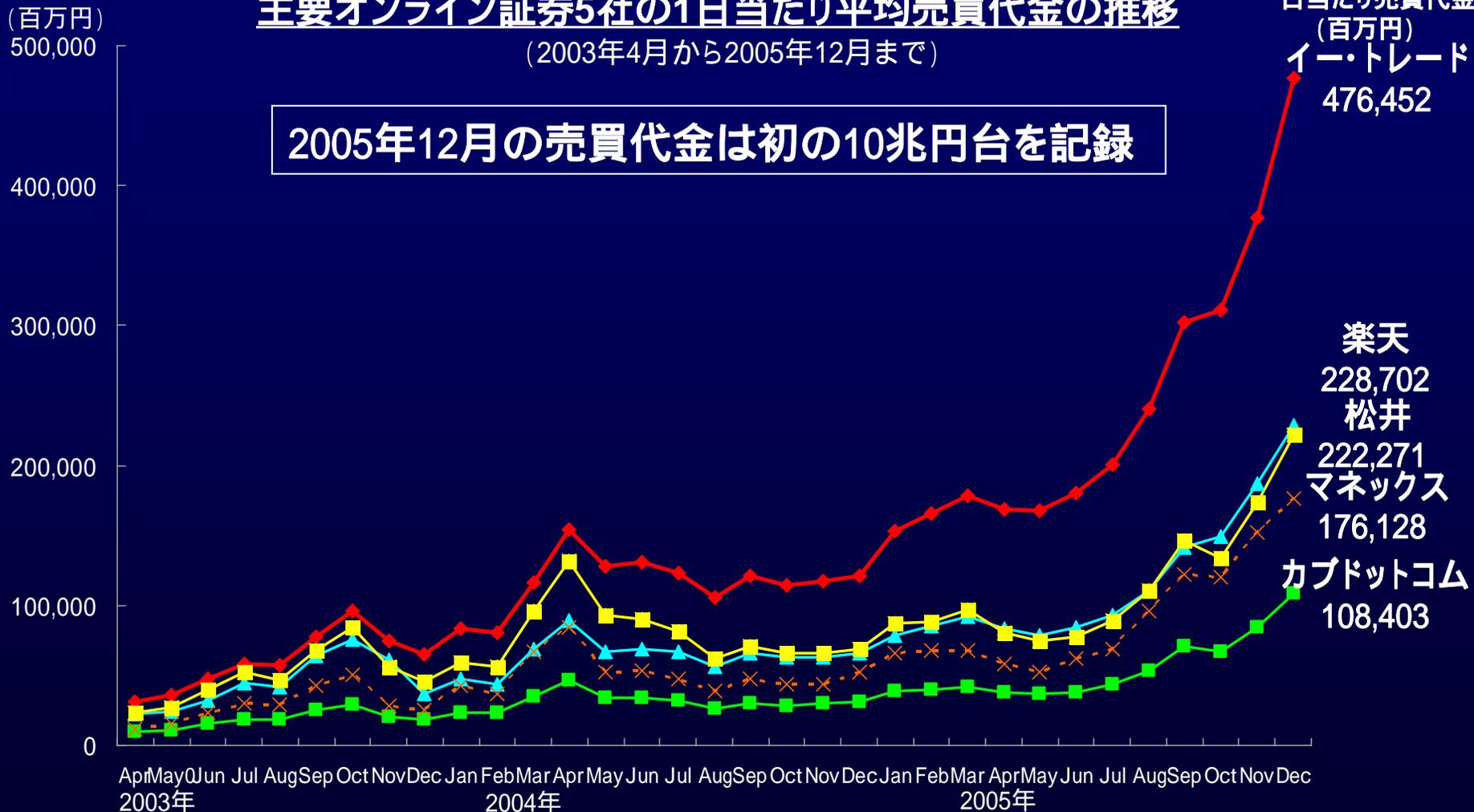
出所:各社ホームページ等公表資料より当社にて集計
マネックス証券、日興ビーンズ証券はマネックスとして合算。

主要オンライン証券の株式委託売買代金推移

主要オンライン証券5社の1日当たり平均売買代金の推移

(2003年4月から2005年12月まで)

2005年12月の売買代金は初の10兆円台を記録

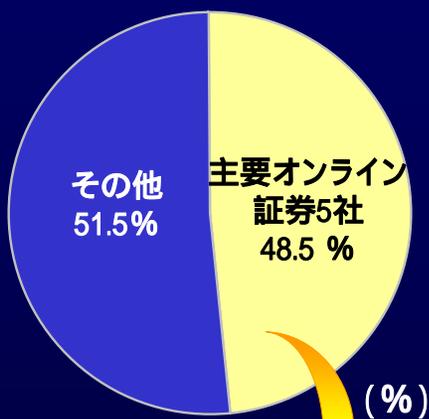


出所: 各社ホームページ等公表資料より当社にて集計
 マネックス証券、日興ビーンズ証券はマネックスとして合算。

主要オンライン証券の個人株式委託売買代金シェア

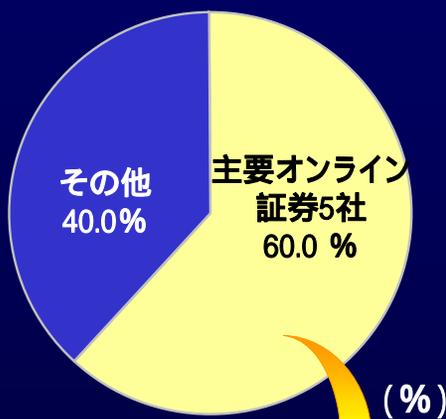
過去3年間の同期間比較

2004年3月期
(2003年4月～2003年12月)



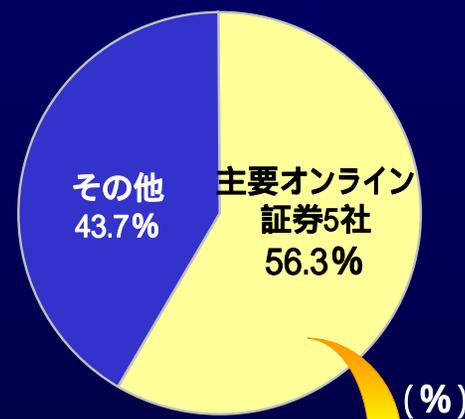
イー・トレード	14.9
松井証券	12.2
DLJ(楽天証券)	9.8
マネックス	7.1
カブドットコム	4.5

2005年3月期
(2004年4月～2004年12月)



イー・トレード	20.9
松井証券	13.6
楽天証券	11.4
マネックス	8.7
カブドットコム	5.4

2006年3月期
(2005年4月～2005年12月)



イー・トレード	22.2
楽天証券	10.6
松井証券	10.2
マネックス	8.3
カブドットコム	5.0

出所：東証統計資料、JASDAQ統計資料、各社ホームページ等公表資料より当社にて集計
個人株式委託売買代金は3市場(1・2部)とJASDAQを合算
マネックス証券、日興ビーンズ証券はマネックスとして合算。

3大証券会社との株式委託売買代金比較

各社の株式委託売買代金の推移

2005年3月期第4四半期に全証券会社で1位となり、その後も堅調に推移

2006年3月期3Qにおける委託シェア
(野村については2006年3月期2Q)

E*トレード証券
24,300 (9.64%)

野村 13,808 (8.19%)

松井 10,809 (4.29%)

大和SMBC 9,223 (3.66%)

日興シティ 6,720 (2.67%)

大和 6,283 (2.49%)

日興コーディアル 3,326 (1.32%)

(10億円)

25,000

20,000

15,000

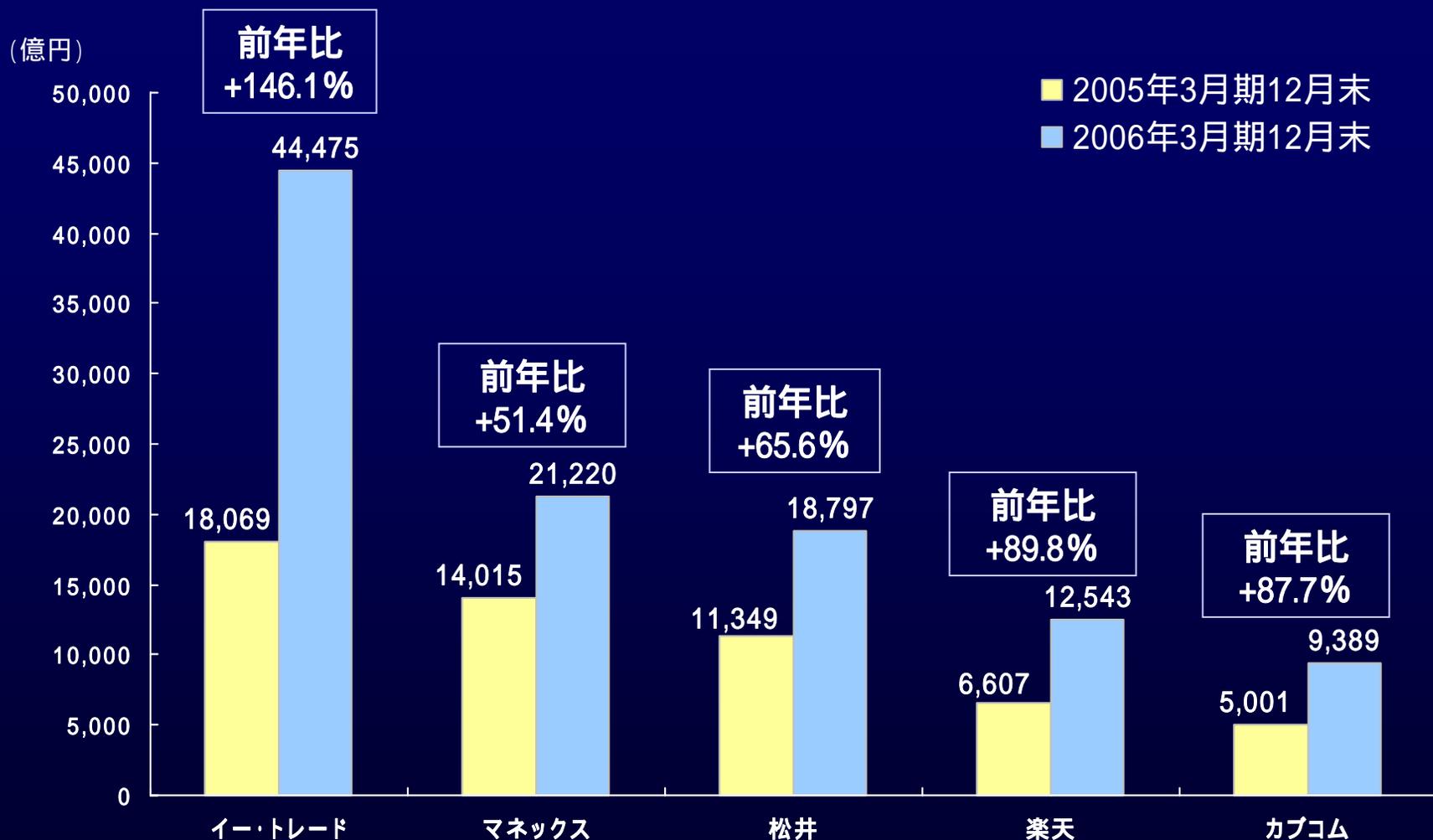
10,000

5,000

0

1Q 2002年3月期 2Q 3Q 4Q 1Q 2003年3月期 2Q 3Q 4Q 1Q 2004年3月期 2Q 3Q 4Q 1Q 2005年3月期 2Q 3Q 4Q 1Q 2006年3月期 2Q 3Q

預り資産の推移

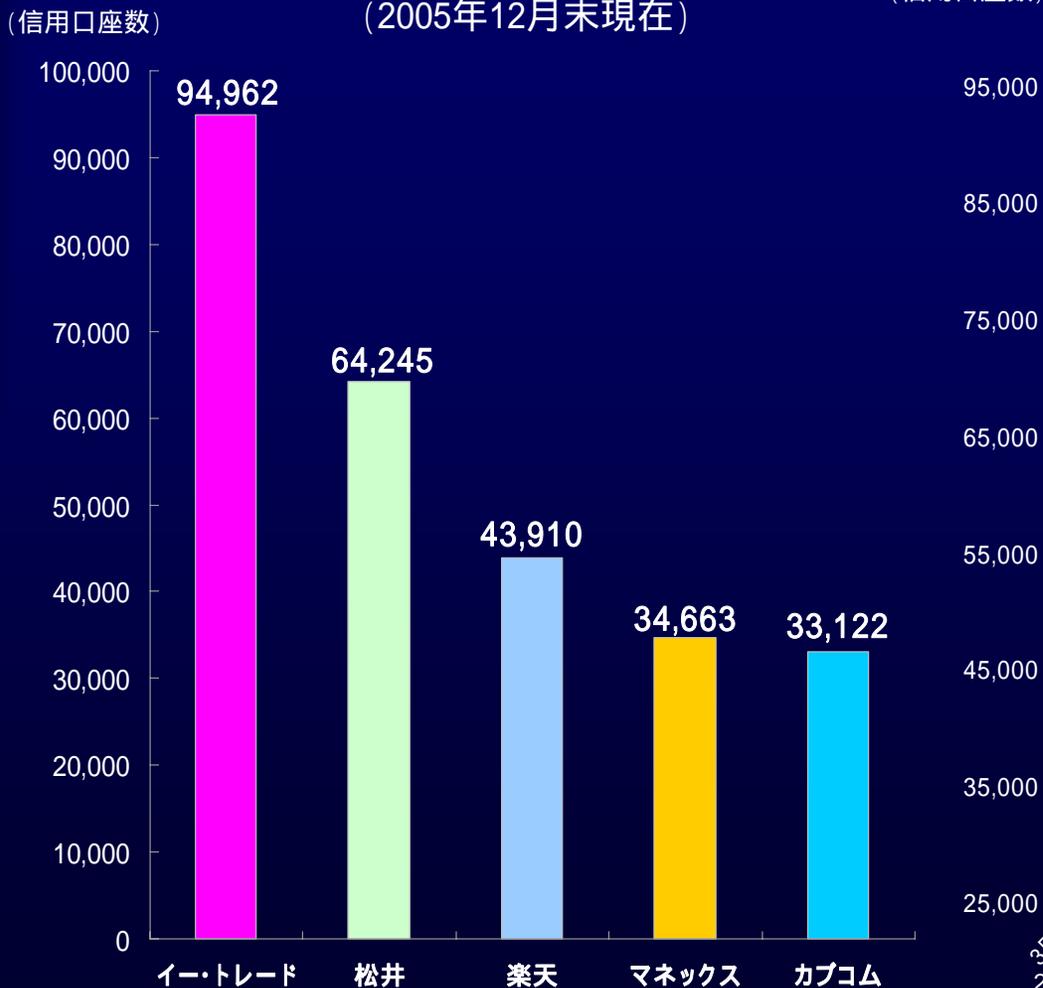


出所： 各社ホームページ等公表資料より当社集計
 マネックス証券、日興ビーンズ証券はマネックスとして合算。

オンライン証券会社との信用口座数比較

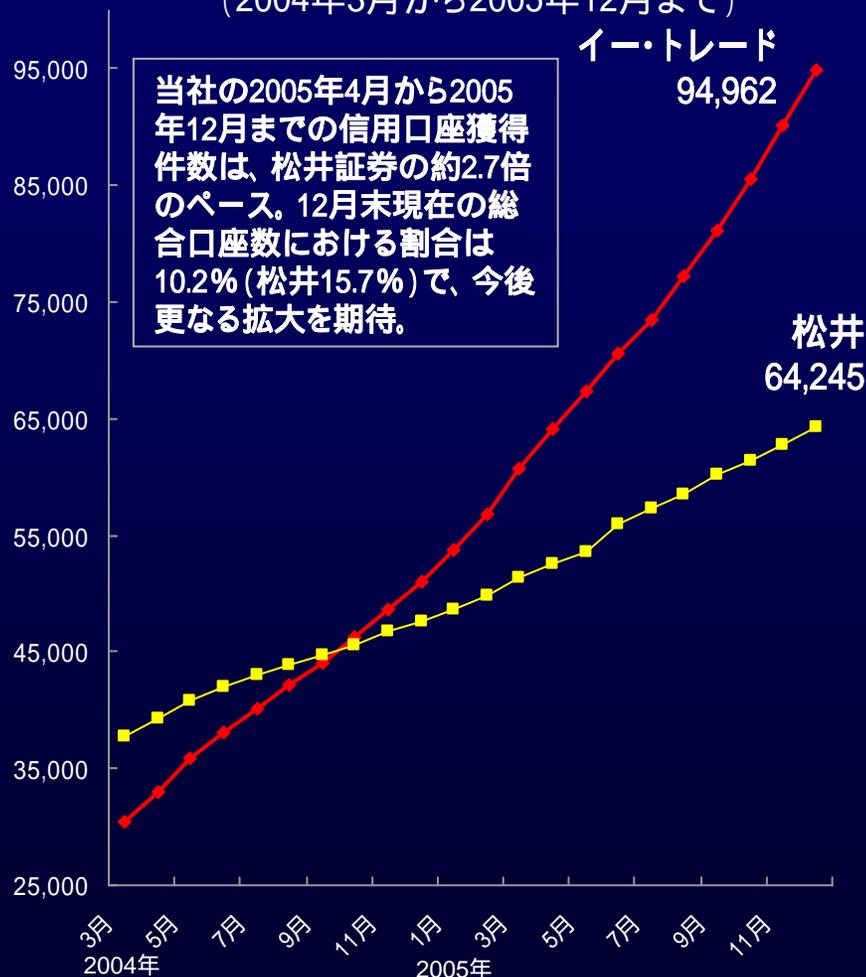
上場オンライン証券5社の信用口座数

(2005年12月末現在)



松井証券との信用口座数比較

(2004年3月から2005年12月まで)



出所: 各社ホームページ等公表資料より当社にて集計
 マネックス証券、日興ビーンズ証券はマネックスとして合算。

信頼性の高い取引システム

常に余裕を持った取引システムの構築で安定した取引を提供

2005年12月に、現行システムへの移行時(2003年7月)の3倍構成のシステム増強を実施

↓
150万口座対応

常にシステムに余裕を持つことで、迅速・柔軟にサービス等の追加が可能

証券総合口座数とシステムキャパシティの推移



公募増資による自己資金の拡充

公募増資

12月16日払込期日 普通株式 66,000株発行

1月16日払込期日 オーバーアロットメントに係る第三者割当 普通株式6,000株発行

資金調達手取額:約490億円(第三者割当分含む)

資金用途:主として引受業務及び信用取引業務の拡大に必要な自己資本の拡充を目的としており、インターネットを通じた信用取引業務の拡大に伴う運転資金に充当予定。



- ・より積極的な引受業務の展開
- ・信用取引における自己融資・貸株ビジネスの推進

自己資本規制比率

2005年9月末

335.5%

2005年12月末

546.6%



株式分割

概要:所有株式数を1株につき3株の割合を持って分割する。

スケジュール:1月31日基準日 2月1日効力発生

目的:株式の流動性の確保、個人株主が売買しやすい環境の整備

) SBI証券(株)

SBI証券 第3四半期累計業績(9ヶ月)

(単位:百万円)

	2005年3月期 第3四半期累計 (2004年4月～12月)	2006年3月期 第3四半期累計 (2005年4月～12月)	前年同期比 増減率(%)
営業収益	8,221	11,706	42.4
営業利益	2,185	5,701	160.9
経常利益	2,371	5,823	145.6
当期純利益	2,643	4,978	88.3

SBI証券 第3四半期単独業績(3ヶ月)

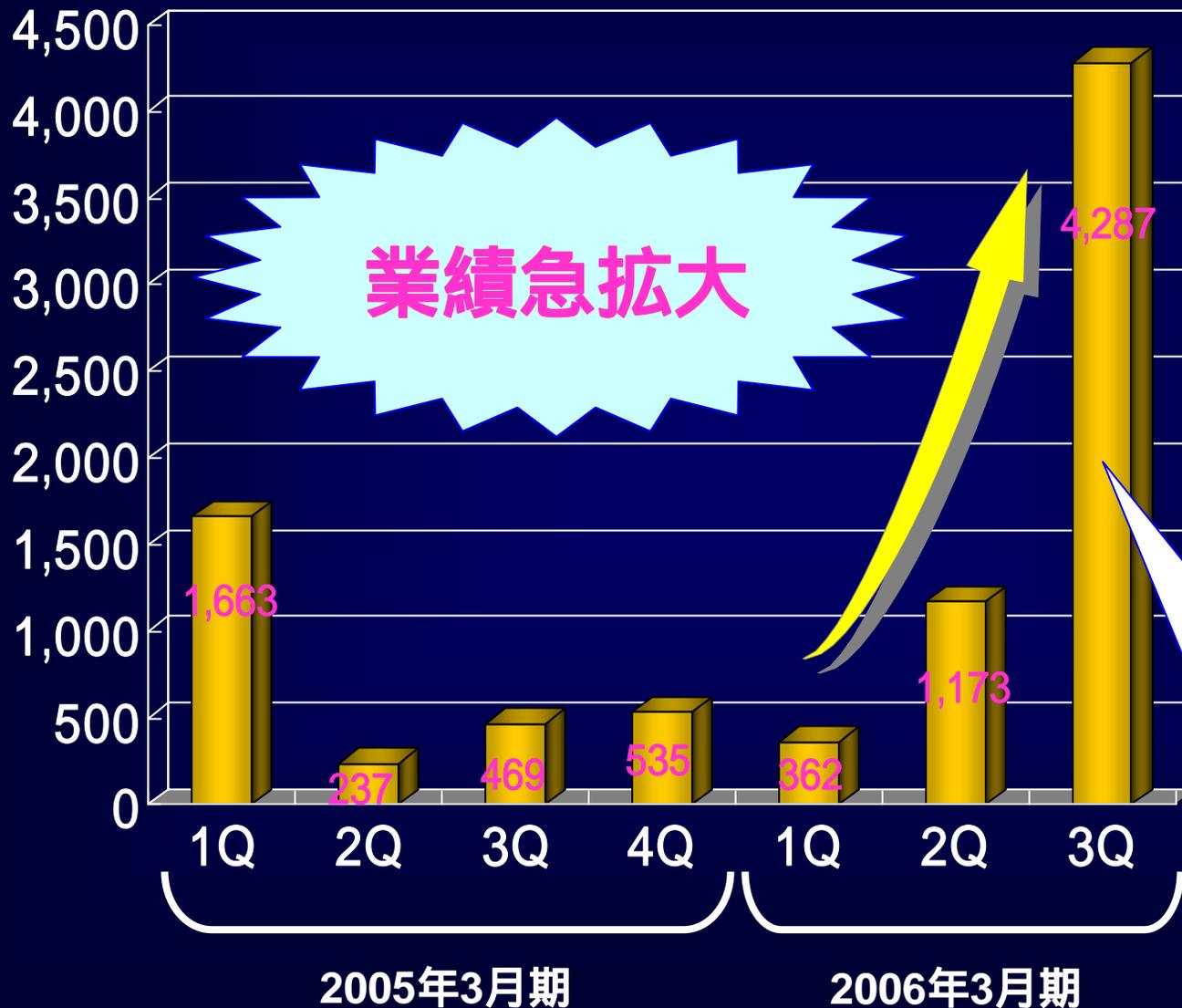
上場来最高益を更新

(単位:百万円)

	2005年3月期 第3四半期単独 (2004年10月～12月)	2006年3月期 第3四半期単独 (2005年10月～12月)	前年同期比 増減率(%)
営業収益	2,349	6,471	175.4
営業利益	438	4,259	872.4
経常利益	469	4,287	813.0
当期純利益	533	2,891	442.2

SBI証券四半期別経常利益推移

(単位:百万円)



■ 経常利益

・当3Q(3ヶ月)実績は、四半期ベースの上場来最高益を更新！
・また、2005年12月の単月実績は、月次ベースの過去最高益を更新！
(社内管理ベース)

主要投信(1) - jnextの純資産総額,基準価額の推移

純資産総額

(百万円)

(委託会社 SBIアセットマネジメント)

基準価額

(円)

■ 純資産総額
◆ 基準価額

基準価額 16,000 円突破!
jnext 純資産総額 500 億円
2005年12月29日現在

純資産
約11ヶ月間で
500億円突破



基準価額

約60%

年率換算約67%

(を越える上昇

(本表は、平成17年12月30日までの値を記載しております。)

主要投信(2) - jcoolの募集開始



2006/1/23現在 純資産総額: 271億円

平成17年11月21日から募集開始 当初募集額100億円を完売!
平成17年12月末までに純資産総額200億円を突破!

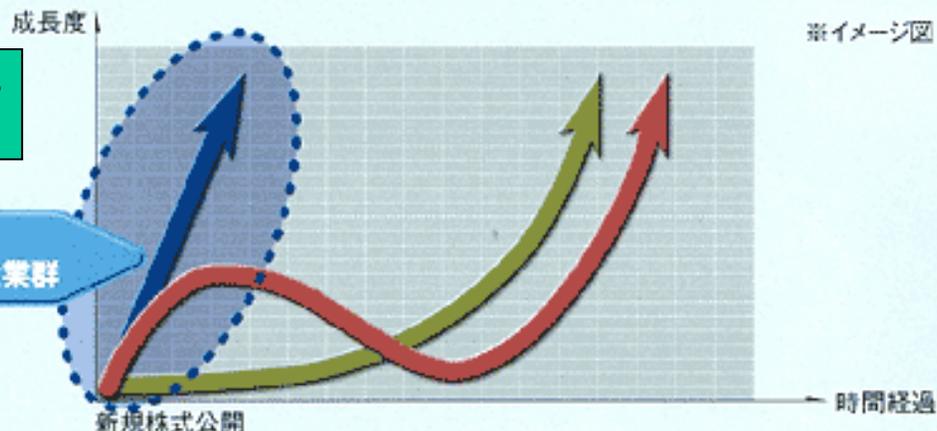
新規公開という、いわば「第2の創業期」を成長の契機として、新たに成長を加速する、
企業家精神に溢れた「次代を拓く革新的な高成長企業」に厳選投資する。

投資助言会社: エンジェルジャパン・アセットマネジメント株式会社
「宇佐美 博高」氏が投資助言

【ジェイクルの投資対象】

原則として公開後3年
以内の企業

ジェイクル
が投資対象とする企業群



) 証券関連事業の更なる拡大

オンライン証券の四冠王へ

「口座数」「預かり資産」「売買代金」三冠王を背景に
「利益」においてもトップ獲得を目指す

2005年3月期通期連結業績

	営業収益 (百万円)	経常利益 (百万円)	平均委託手数料 (ベース)
イー・トレード	27,174	11,343	5.5
松井	36,918	22,571	12.3
MBH	21,716	9,180	11.3
楽天	14,780	5,827	5.5
カブドットコム	11,725	5,891	10.4

差11,228百万円

2006年3月期第3四半期連結業績

	営業収益 (百万円)	経常利益 (百万円)	平均委託手数料 (ベース)
イー・トレード	40,590	19,540	4.9
松井	38,842	25,202	11.7
MBH	27,227	16,916	10.0
楽天	20,918	11,036	5.5
カブドットコム	14,029	8,330	9.4

差5,662百万円

松井証券は2006年4月を目処に
小口は手数料大幅引き下げへ...

カブドットコムは単独

平均委託手数料 = 委託手数料 ÷ 委託売買代金 (出所: 各社決算資料より当社算出)

証券業界におけるポジショニング(顧客基盤)

口座数ランキング

(2005年12月末)

(単位:口座)

1	野村(11月末)	(3,847,000)
2	大和Gr.	2,631,000
3	日興コーディアル	2,164,122
4	三菱UFJ	1,073,000
5	新光	1,008,000
6	イー・トレード+SBI	998,108
7	マネックス	542,555
8	楽天	454,125
9	松井	409,766
10	カブドットコム	336,423

(出所:各社開示資料より当社にて集計)

三菱UFJの定義は有残口座数

イー・トレードは2006/1/25
100万口座突破!

預り資産残高ランキング

(2005年9月末)

(単位:億円)

1	野村	810,318
2	大和Gr.	465,921
3	日興Gr.	368,353
4	三菱+UFJつばさ	203,054
5	新光	121,028
6	みずほ	79,263
7	みずほインベ	61,248
8	東海東京	39,423
9	イー・トレード+SBI	33,873
10	岡三	32,600
11	SMBCFレンド	30,237
12	丸三	17,791
13	マネックス	17,563
14	コスモ	17,483
15	いちよし	16,426
16	松井	15,166
17	東洋	11,780
18	水戸	9,880
19	楽天	9,415
20	カブドットコム	7,078

2005年12月末
イー・トレード+SBI
50,053億円

(出所:「金融ビジネス」誌より当社にて集計)

証券業界におけるポジショニング(業績)

営業収益ランキング (2006年3月期第3四半期)

(単位:億円)

1	野村	* 未発表
2	大和Gr.	5,760
3	日興Gr.	3,546
4	三菱UFJ	2,519
5	新光	1,092
6	岡三HD	639
7	みずほインベ	582
8	イー・トレード+SBI	522
9	東海東京	509
10	SMBCフレンド	496
11	松井	388
12	MBH	272
13	丸三	216
14	いちよし	199
15	コスモ	193
16	東洋	175
17	水戸	153
18	カブドットコム	140

経常利益ランキング (2006年3月期第3四半期)

(単位:億円)

1	野村	* 未発表
2	大和Gr.	1,623
3	日興Gr.	1,290
4	三菱UFJ	783
5	新光	283
6	イー・トレード+SBI	253
7	松井	252
8	岡三HD	249
9	SMBCフレンド	227
10	みずほインベ	224
11	東海東京	192
12	MBH	169
13	丸三	92
14	カブドットコム	83
15	いちよし	69
16	水戸	68
17	東洋	56
18	コスモ	42

* 2006年1月27日現在

(出所:2006年1月28日付日フジサンケイビジネスアイ)

ファイナンシャル・サービス事業

(3) ファイナンシャル・サービス事業のハイライト

ファイナンス・オールでは各事業部門とも順調に推移、**連結営業利益率が前年同期12.7%から14.3%へと向上**

マーケットプレイス事業では見積もり件数が前年同期比52.8%増加

総合比較サイト「比較ALL」を中核に、非金融分野の比較サイトも充実
SBIモーゲージでは公庫証券化ローン「フラット35」の伸びが加速、**12月
末住宅ローン実行残高は1,590億円**に（サービス開始は2001年5月）

SBIペリトランスにおいては**トランザクション件数が前年同期比40%増**

モーニングスターは全事業において売上高が増加、連結経常利益率は前期17.2%から20.9%へと向上

自社ウェブサイトのページビュー急増及び、出資した**株式新聞社・サーチナとのメディアミックス**により広告の受注が大幅に増加

ゴメス・コンサルティングは本年より開始した**モバイルサイトのコンサルティングも売上に貢献**し、売上高前期比34.2%増の372百万円、経常利益51.4%増の127百万円となる

ネット消費者金融SBIイコールクレジットの**貸付残高は営業開始後14ヶ月で70億円を突破**、10月よりビジネスローンも開始

ファイナンス・オール 連結業績

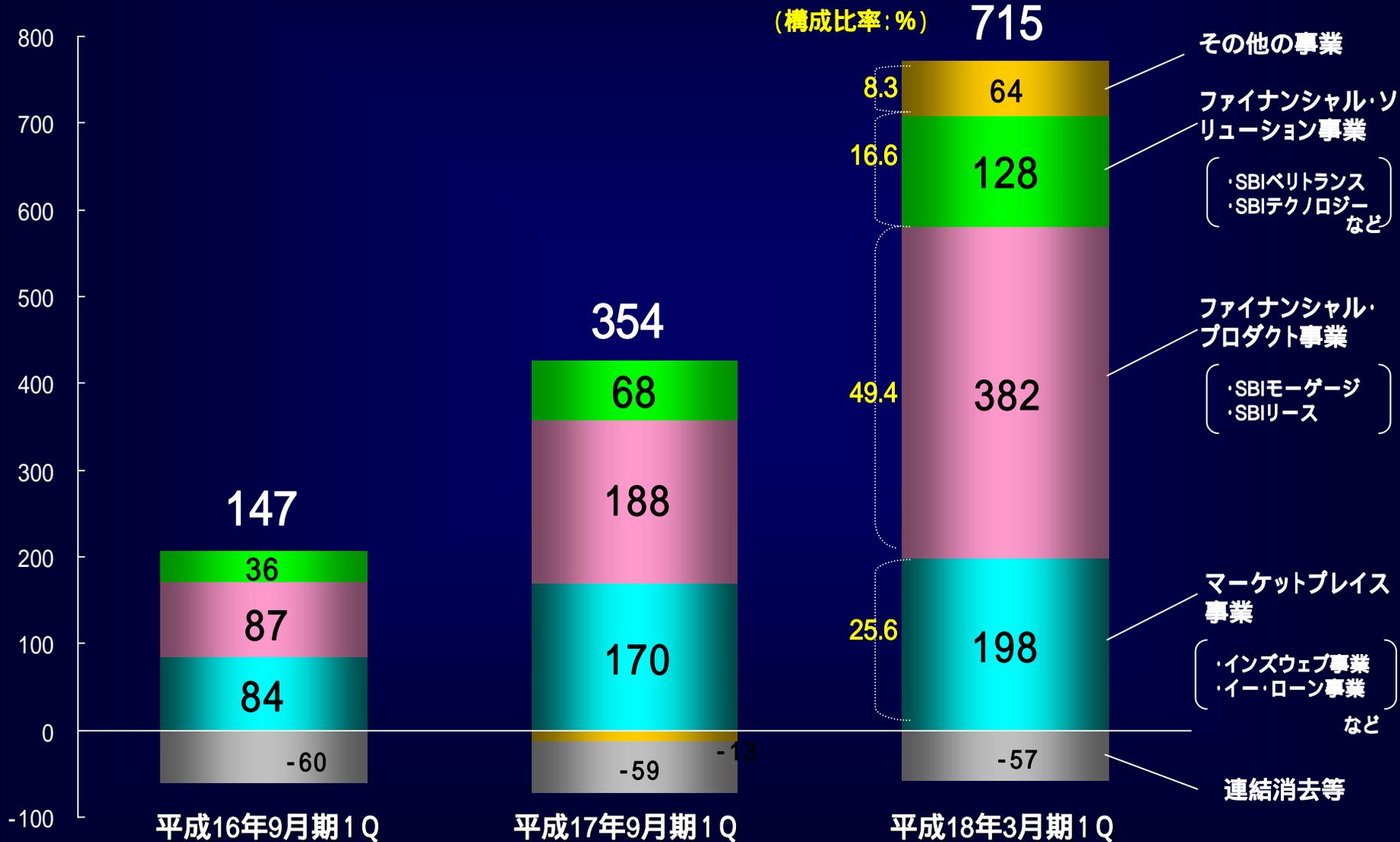
(単位:百万円)

	2005年9月期 第1四半期 (2004年10月～12月)	2006年3月期 第1四半期 (2005年10月～12月)	前年同期比 増減率(%)
売上高	2,788	4,923	+76.6
営業利益	354	715	+102.0
経常利益	353	693	+96.2
当期純利益	453	320	29.2

SBIペリトランス(株)の株式公開時の公募増資(平成16年10月)に伴う持分変動による「持分変動によるみなし売却益」約250百万円を計上しております。

ファイナンス・オール セグメント別連結営業利益

(単位:百万円)



(注1) 単位未満は切り捨てにて表示

(注2) 営業利益比率につきましては、連結消去及び全社費用控除前の数値に基づき算出しております。

成長著しいSBIモーゲージの住宅ローン事業

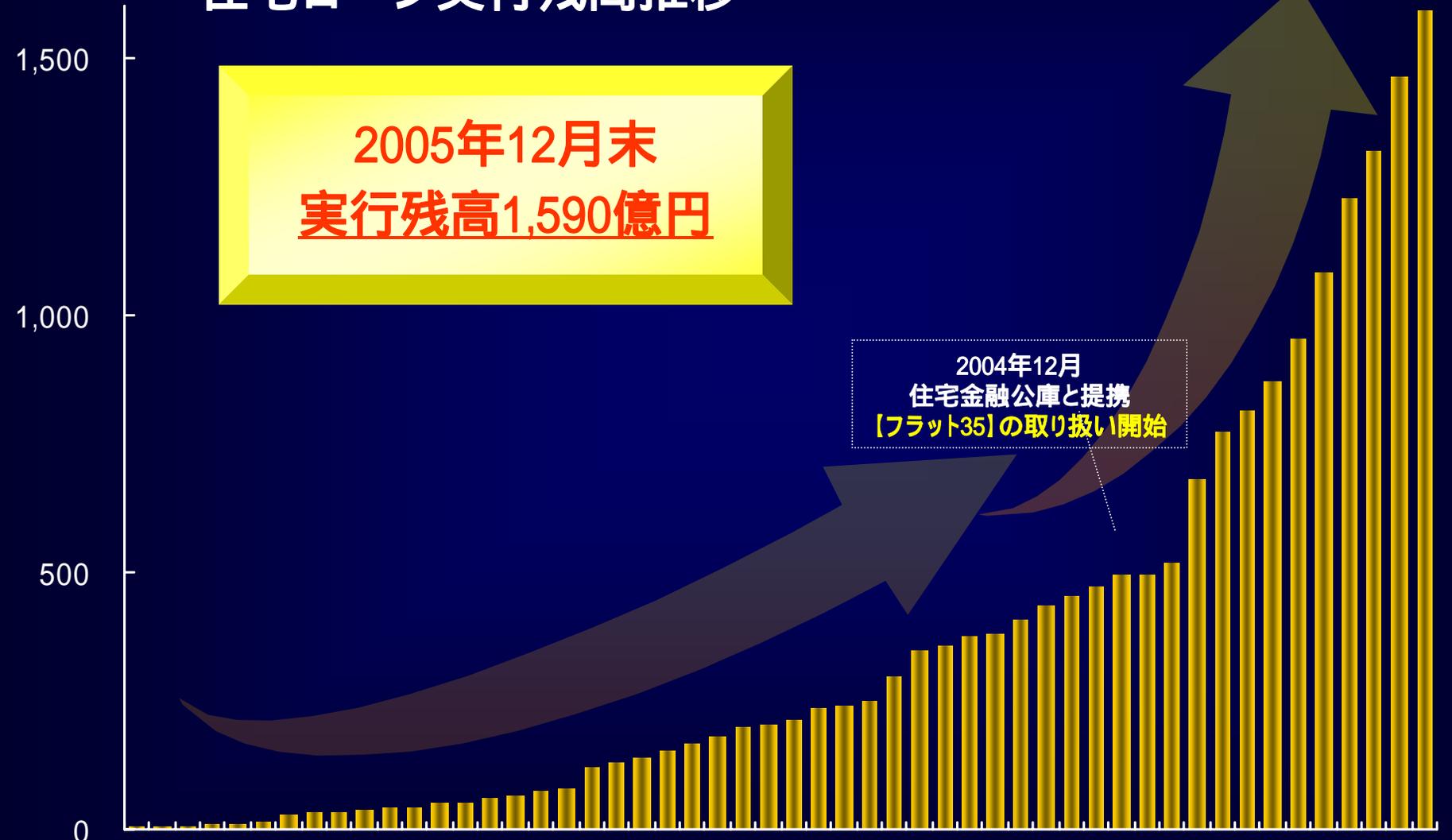
住宅ローン実行残高推移

(億円)

2005年12月末
実行残高1,590億円

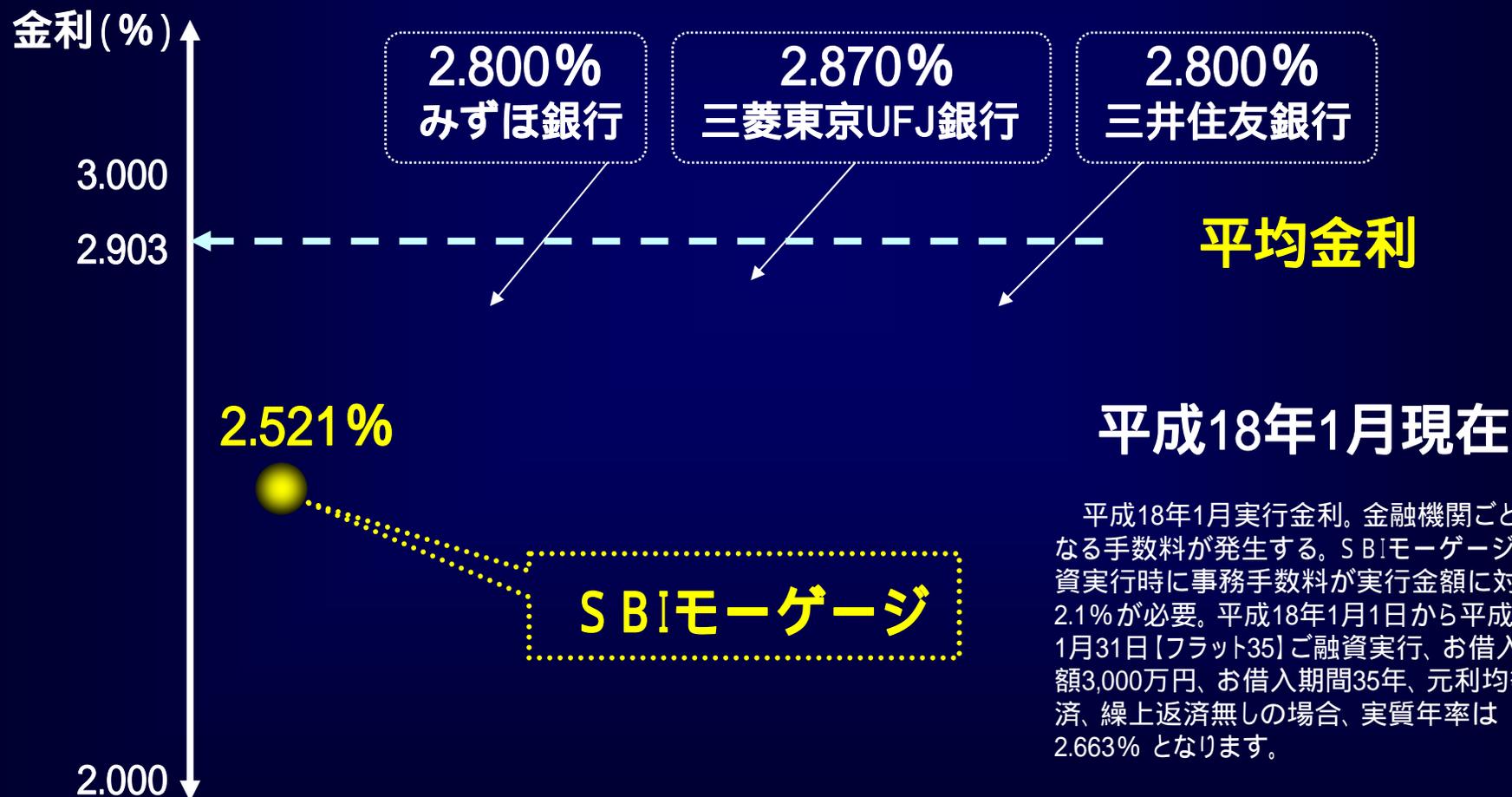
2004年12月
住宅金融公庫と提携
【フラット35】の取り扱い開始

9月 12月 3月 6月 9月 12月 3月 6月 9月 12月 3月 6月 9月 12月 3月 6月 9月 12月
2001年 2002年 2003年 2004年 2005年



フラット35 (公庫証券化ローン)の金利比較

最長35年固定金利、最低金利2.23%でスタート。常に顧客中心主義を徹底、全274金融機関の中で**最低金利水準**を実現。

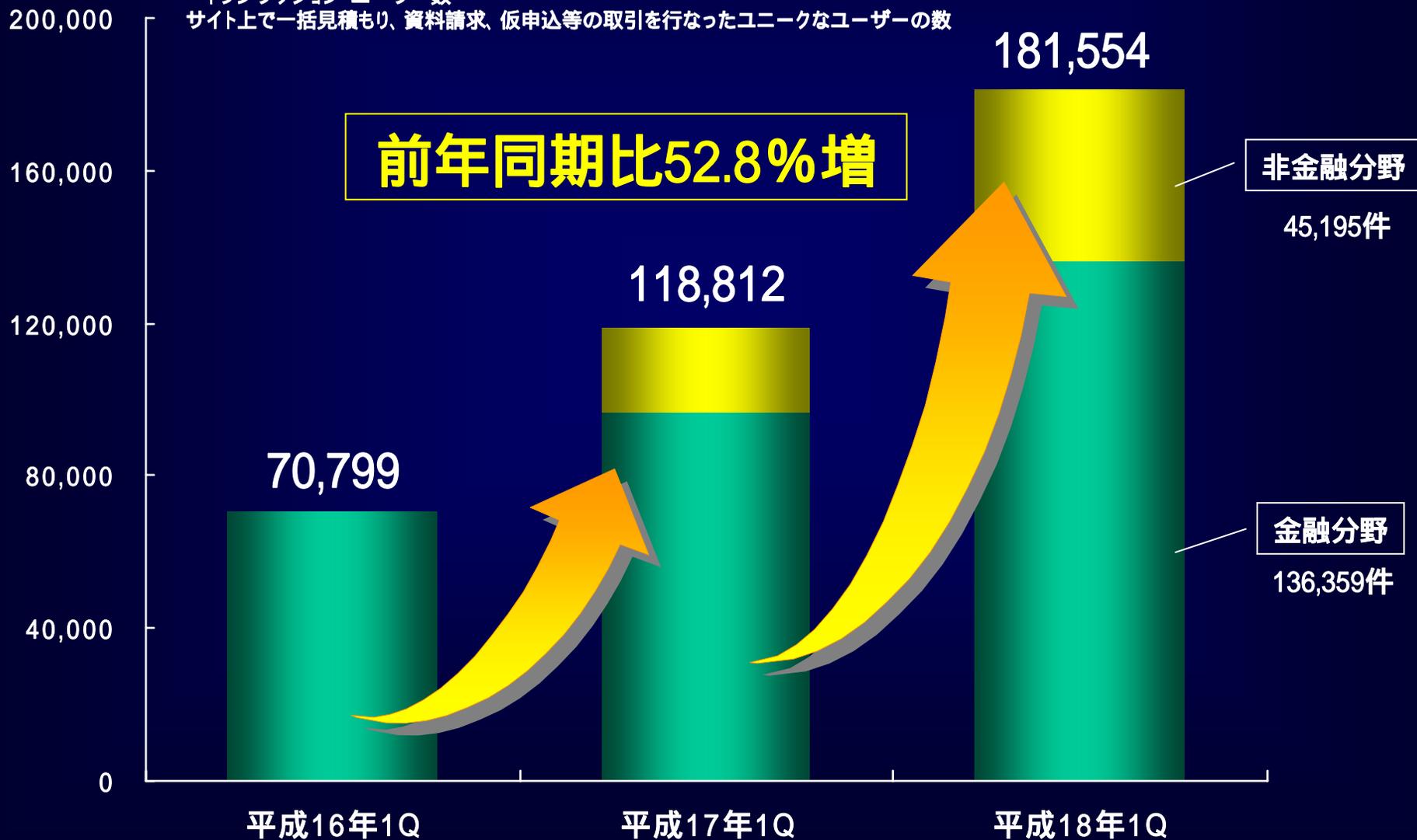


成長するマーケットプレイス事業

トランザクション・ユーザー数の推移

(単位:件)

トランザクション・ユーザー数
 サイト上で一括見積もり、資料請求、仮申込等の取引を行なったユニークなユーザーの数



イー・ローンが飛躍的にコンテンツを拡充

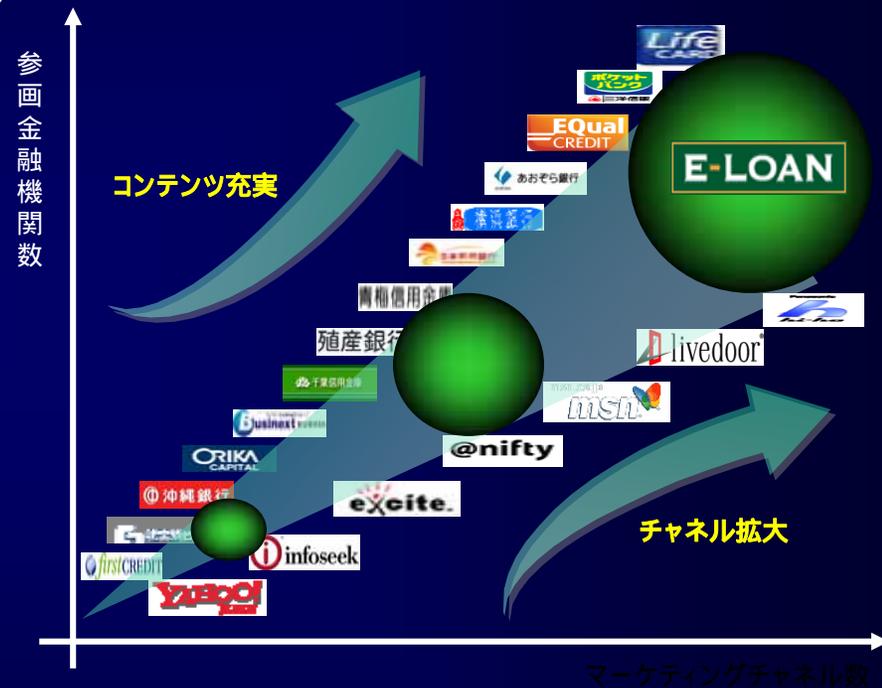
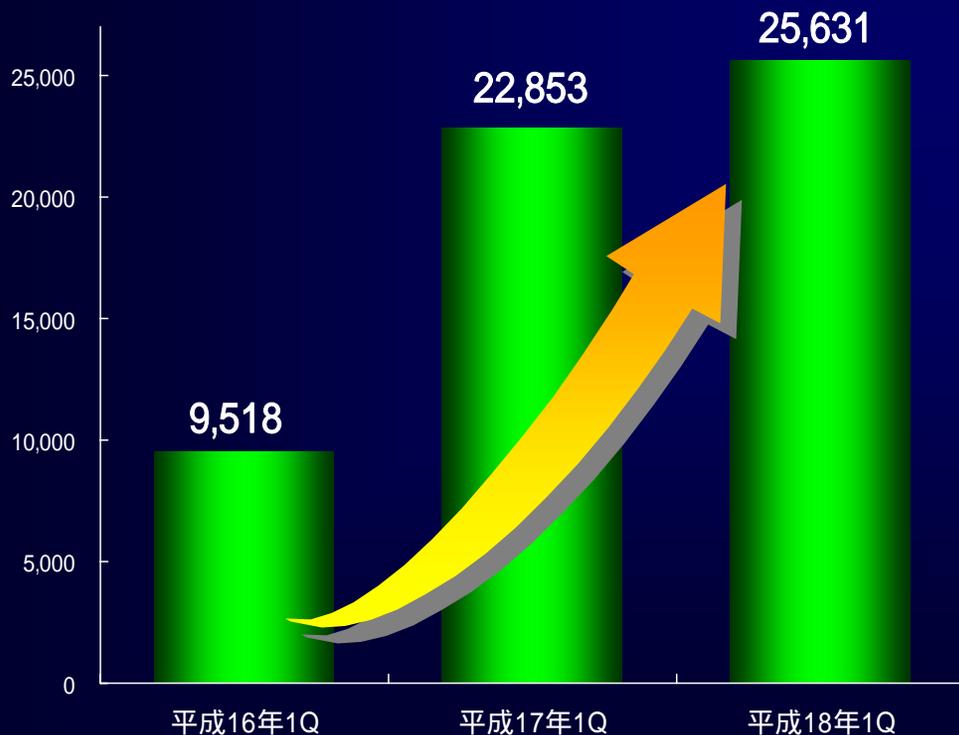
E-LOAN

パソコン・モバイル端末だけでなく、電話での仮申込みも可能に

トランザクション・ユーザー数の推移
(ローン仮申込み件数)

前年同期比12%増

(単位:件)



日本最大級のローン比較サイト

- ・金融機関数: 70社
- ・ローン商品数: 560種類

SBIグループ他社の業績

(百万円)

モーニングスター 通期業績

	2005年12月期通期 (2005年1月～12月)	前年同期比 増減率(%)
売上高	1,259	+24.1
営業利益	252	+47.4
経常利益	263	+50.6
純利益	263	+147.8

前期比78%増額配当を決定(株式分割考慮後)

E*Trade Korea

	2006年3月期3Q (2005年4月～12月)
売上高	3,461
営業利益	664
経常利益	666
純利益	535

今四半期に累積損失を一掃し、
株式公開準備へ

SBIベリトランス 第3四半期業績

	2006年3月期3Q (2005年4月～12月)	前年同期比 増減率(%)
売上高	1,327	+100.8
営業利益	280	+95.8
経常利益	277	+87.2
純利益	164	+18.0

2006年3月末基準で1:3の株式分割を決定

各ビジネスとも順調に
業容を拡大中

2 . SBIグループ発展に向けた 段階的成長戦略

新生SBIホールディングスの形成

2005年7月1日 持株会社SBIホールディングスの設立

(持株会社移行前)

(持株会社移行後)

7月1日商号変更



ファンド事業移管

ファンド事業

バイオビジョンキャピタル株

ソフトバンク・コンテンツパートナーズ株

SBIベンチャーズ株

3社合併

アセットマネジメント事業
ソフトバンクインベストメント株
(旧商号SBIベンチャーズ株)

プロカレッジ&インベストメント
バンキング事業

ファイナンシャルサービス事業

非金融分野

SBIグループは「金融を超える」

「金融イノベーター」



「金融を核に金融を超える」



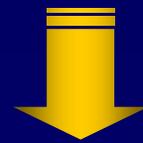
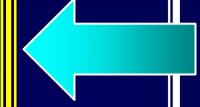
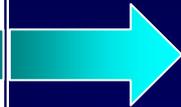
Softbank Investment から

“**Strategic Business Innovator**”へ

金融分野を超え、戦略的な事業革新者としてさまざまな
事業分野に進出し、主要な生活局面において必要となる
財・サービス・情報を提供する

2006年1月27日 臨時株主総会承認 事業展開加速のための吸収合併・完全子会社化

2006年3月1日 株式交換日



3社合併・完全子会社化による
財務上のメリット:

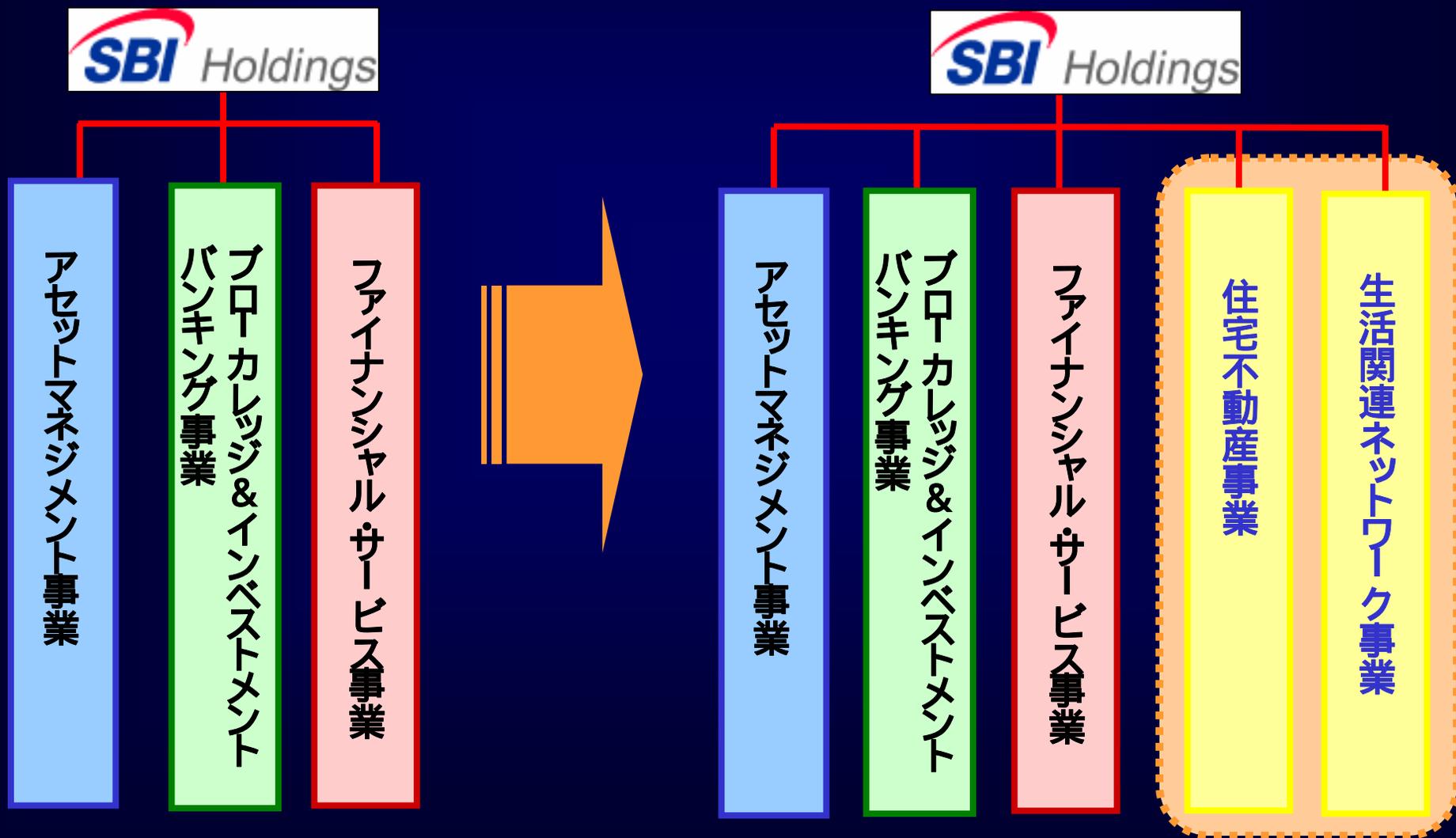
- ・事業持株会社化により社債格付の向上を目指す。間接金融・直接金融ともに優位を確立する
- ・新規事業分野への弾力的な資金供給
- ・M & A・ジョイントベンチャー・戦略的資本提携の推進

3社合併・完全子会社化による
営業上のメリット:

- ・グループの広範囲なシナジーの積極的 pursuit
- ・SBIホールディングスの知名度・信用力・情報力及びネットワークを活用した戦略的アライアンスの推進

3つのコアビジネスから5つのコアビジネスへ

住宅不動産事業・生活関連ネットワーク事業を、コアビジネスと明確に位置づける



合併及び完全子会社化3社の概況

	SBIパートナーズ (連結)	ファイナンス・ オール(連結)	SBI証券
株主数 (2005/12/9)	8,212名	19,264名	8,202名
発行済株式数 (2005/12末)	27,954,392株	850,241株	966,104株
業績(百万円)	2006年3月期 業績予想(9ヶ月)	2005年9月期 通期	2006年3月期 3Q累計
売上高(営業収益)	12,700	13,854	11,706
営業利益	-	2,118	5,701
経常利益	2,300	2,050	5,823
当期純利益	2,000	3,603	4,978
連結従業員数 (2005/12末)	103名	193名	384名

自己株式除く

SBIホールディングス
68,407名
9,548,835株

株式交換後

SBIホールディングス
株主数 104,085名 (単純合算)
発行済株式数 12,095,451株 (交換比率考慮)

ソフトバンク・エーエム持株比率

34.0% (2005/12末)  26.8% (合併後想定)

グループ再編後の新生SBIグループ概略

(2006年3月1日～)

生活関連ネットワーク事業

SBIライフパートナー

SBI Holdings

(東証1部 8473)

不動産住宅事業

SBI Planners

ZEPHYR

(東証1部 8882)

* 持分法適用会社

アセットマネジメント事業

SOFTBANK INVESTMENT

SBI Capital

SBI Asset Management

SBI Arsnova Research

インベストメントバンキング
& ブローカレッジ事業

E*TRADE JAPAN

(JASDAQ 8701)

E*TRADE증권

SBI Securities

SBI Futures

ファイナンシャル・サービス事業

SBI Mortgage

SBI Mortgage Consulting

SBI Lease

SBI Technology

CANOW

MORNINGSTAR

(ヘラクレス 4765)

Gómez

SBI Benefit Systems

SBI Servicer

E*GOLF

SBI VeriTrans

(ヘラクレス 8696)

SBI Equal Credit

SBI Card

SBI Accounting

SBI artfolio

SBIグループの段階的成長戦略

SBIグループ段階的成長戦略

Step 1: 金融分野での確固たる実績の達成と
SBIグループ認知度の飛躍的向上

Step 2: 広範囲な金融・非金融分野での
日本有数の企業との戦略的提携による
更なる事業拡大と社会的信用の向上

Step 3: 我が国最大の金融商品ネットディストリビューター
としての不動の地位のみならず
ライフイベント&ステージでの
ネットワーク価値を広範囲に提供できる
企業生態系の形成

現在のSBIグループ主要金融事業一例

～ SBIホールディングス第3四半期連結業績:売上高1,003億円 経常利益396億円～

～ Yahooにおける「SBI」検索ヒット数は現在約530万件～

公開会社 参入済み 参入予定

イー・トレード証券	ネット証券の三冠王！ 1月にイー・トレード証券100万口座突破！
スルガ銀行ソフトバンク支店 住友信託銀行とネット銀行設立準備中 同行とグループ各社との戦略的提携	ネット銀行ではフルバンキング業務展開へ
SBIモーゲージ	残高1,000億円突破からわずか4ヶ月後の12月末実行残高1,590億円！
SBIグループ運用部門	12月末運用規模5,249億円(ノンリコ含み5,649億円) 規模及びパフォーマンスで日本のトップクラス！ 企業再生分野でも高パフォーマンス
モーニングスター	投信評価のトップ企業！
SBIフューチャーズ	商品先物ネット専業最大！ 株式公開準備中
SBIイコールクレジット	SBIイコールクレジットは営業開始後14ヶ月で貸付残高70億円を突破！
ファイナンス・オール内 イー・ローン事業部 インズウェブ事業部	イー・ローンはローン比較サイトのトップブランド！ インズウェブは保険比較サイトのトップブランド！
SBIベネフィット・システムズ (イー・トレード証券経由)	運営管理手数料(年額)は無料 (残高50万円以上の場合)

3. Step 2に入った 今年の3大戦略目標

様々な金融商品の
我が国最大規模の
ディストリビューターを目指す

) 製販分離体制の確立

~ 金融業における製販分離の分業体制は時代の趨勢 ~

アセットマネジメント部門組成商品の証券部門での販売拡大

強力な運用部門



不動産ファンド



ベンチャーファンド



企業再生ファンド



投資信託



投資信託

拡大する多様な投資家層



グループ販売実績：
未公開株ファンド 210億円募集完了
BBファンド個人投資家向け208億円募集
Jnext投信純資産500億円突破
Jcool投信純資産200億円突破・・・

住宅ローン分野での製販分離



SBIモーゲージ(住宅ローンの製造)

- ・インターネットを使った徹底的な低コストオペレーションによる最低水準金利の維持



SBIモーゲージ・コンサルティング

(SBIモーゲージ以外の他社ローンも含めた住宅ローンの販売)

：SBIホールディングス100%子会社化の予定

- ・リアルな住宅ローン販売拠点の展開
- ・保険、証券、銀行等他の金融商品もワンストップで取り扱い、収益源多様化を目指す

2005年1月16日「SBIモーゲージ六本木」OPEN

One Stop

「顧客が望む金融サービスを総合的に提供する」
【住宅ローン】
【生命保険】
【損害保険】
【医療保険】
【投信】(2006年度中開始予定)

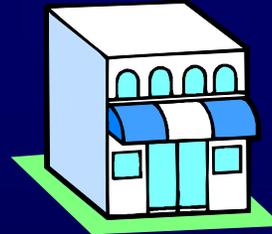
One To One

「顧客の個別相談に応じるコンシェルジュ機能」
専門の住宅ローン・コンサルタント、
ファイナンシャル・コンサルタントが、
完全予約制により、きめ細かい対応

～ 将来的な「SBIマネーショップ」への布石～

One Table

「顧客が望む金融サービスを一覧比較する」
【住宅ローン】提携12行(2006年1月16日現在)
【保険】提携17社(2006年1月16日現在)
【投信】数百種類の商品を提供予定



Open 7 Days

「いつでもどこでも顧客が望む時間で対応」
年中無休で、忙しいお客様への対応も「金融コンビニ」感覚で

店舗コンセプト 「4つの0」

オー

) 有力企業との戦略的提携

例:住友信託銀行とのネット銀行設立及び多面的提携

戦略的提携を通じた未進出分野への事業展開及び 既進出分野の飛躍的な規模拡大

広範囲な既存事業会社との提携・ジョイントベンチャーにより、
下記事業領域への進出を加速する

未進出分野への進出:

- ・ジョイントベンチャーによるネットを用いた生命保険販売会社、
損害保険販売会社の設立を目指す

.....

既進出分野の飛躍的な規模拡大:

- ・ネット消費者金融会社SBIイコールクレジットの
戦略的提携を通じた規模の拡大を目指す
- ・カード分野における製販分離体制の確立

.....

非金融分野での ビジネスモデルの確立

） 住宅不動産事業への本格的進出

部門収益目標：数年後に経常利益100億円規模を目指す

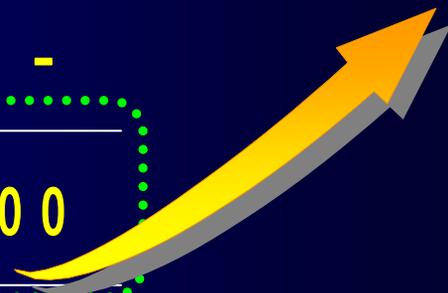
- ・自己資金の積極的投入
- ・不動産ファンド事業への注力
(4月頃を目処に新ファンド募集開始予定)
- ・REIT等への進出
- ・不動産分野での積極的なアライアンスの推進

SBIパートナーズ 連結業績

(単位:百万円)

	2005年6月期 中間期 (2004年7月～12月)	2006年3月期 中間期 (2005年7月～12月)	2006年3月期 通期業績予想 (9ヶ月間) (2005年7月～ 2006年3月)
売上高	5,139	8,026	12,700
営業利益	229	2,128	-
経常利益	231	2,089	2,300
中間純利益	362	1,779	2,000

数年後に
100億円規模
を目指す!



今期は、決算期変更(6月30日から3月31日)に伴い9ヶ月の変則決算となります。

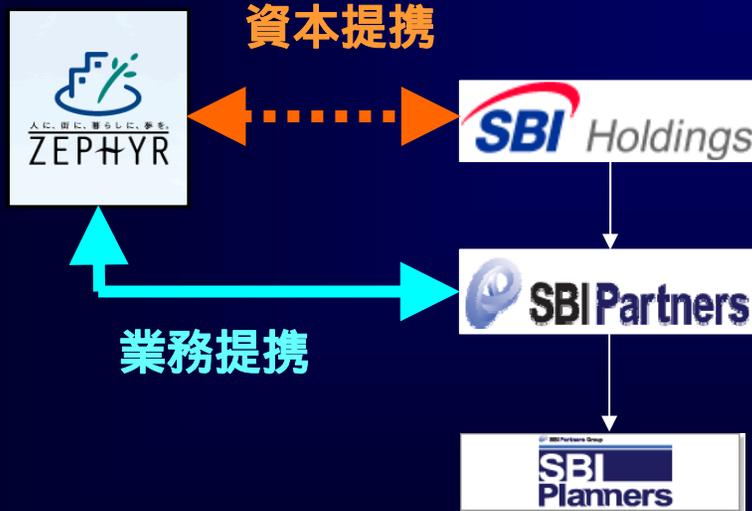
今期よりホメオスタイル(株)が連結子会社から持分法適用関連会社に変更となっております。

ゼファーとの提携関係の強化

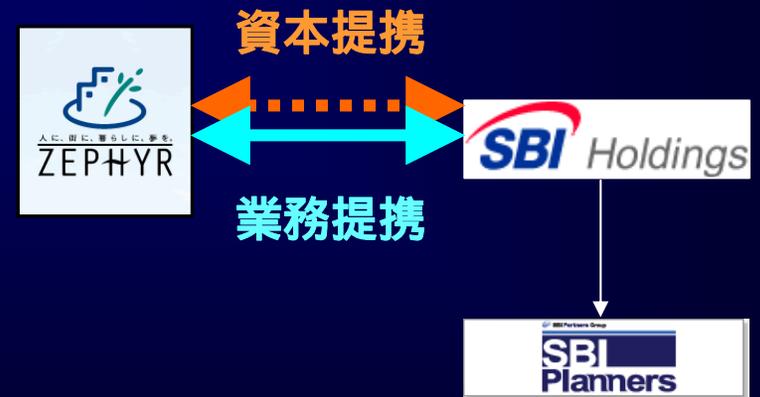
SBIホールディングスとSBIパートナーズの合併により、ゼファーとの資本・業務提携が一本化され、今後のより迅速でダイナミックな提携推進が可能となった。

- ・ゼファーとの共同M&A (建設会社・ディベロッパー等)
- ・不動産ファンド設立
- ・ゼファーとのジョイントベンチャー事業
- ・REITへの参入…

合併前



合併後



SBIグループの強みを生かした不動産ファンドの組成へ

運用面：

- ・不動産 + 未公開株
- ・不動産 + 不動産関連会社の株式
- ・多様な金融事業を通じた不動産情報の取得
- ・SBIグループによる住宅性能の保証

.....



募集面：

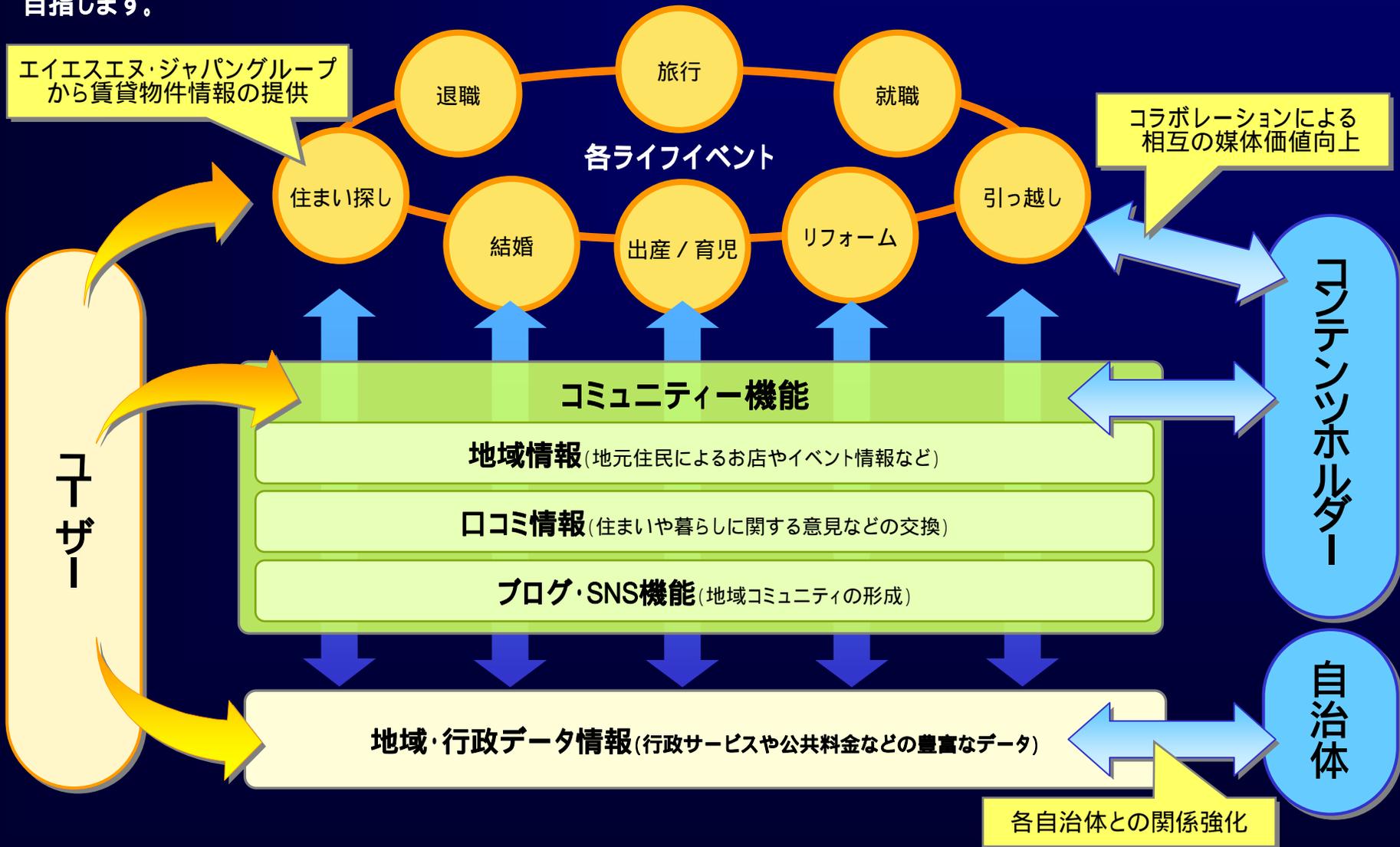
- ・アセットマネジメント業務による豊富な実績
- ・グループ証券会社による強力な販売力

.....



) 生活関連ネットワーク事業への本格的進出

行政サービス情報や地域密着情報をコアインフォメーションとして、様々なライフイベントとコミュニティを連携した新たな生活情報の発信や、引っ越し、不動産、ローンなど、ライフサイクルに必要なサービスを提供する【エリアポータルサイト】の実現を目指します。



比較ALL™

による「比較」事業におけるノウハウ蓄積

Step1: SBIグループがより良い商品・サービスを厳選

Step2: 顧客はその中から自分に合ったベストな商品・サービスを選択



金融関連情報と
生活関連情報と
の相乗効果を図る

すべてを比較し、
すべてを見積もる！

集約化・効率化

金融・生活関連情報

比較サイト

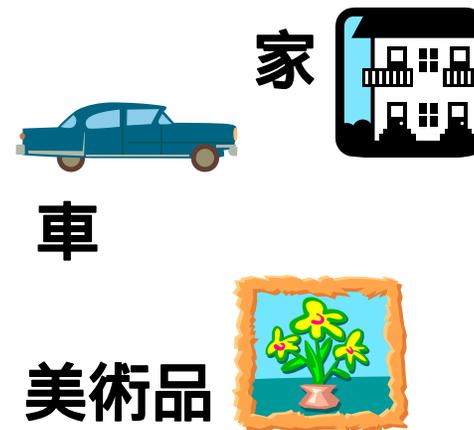
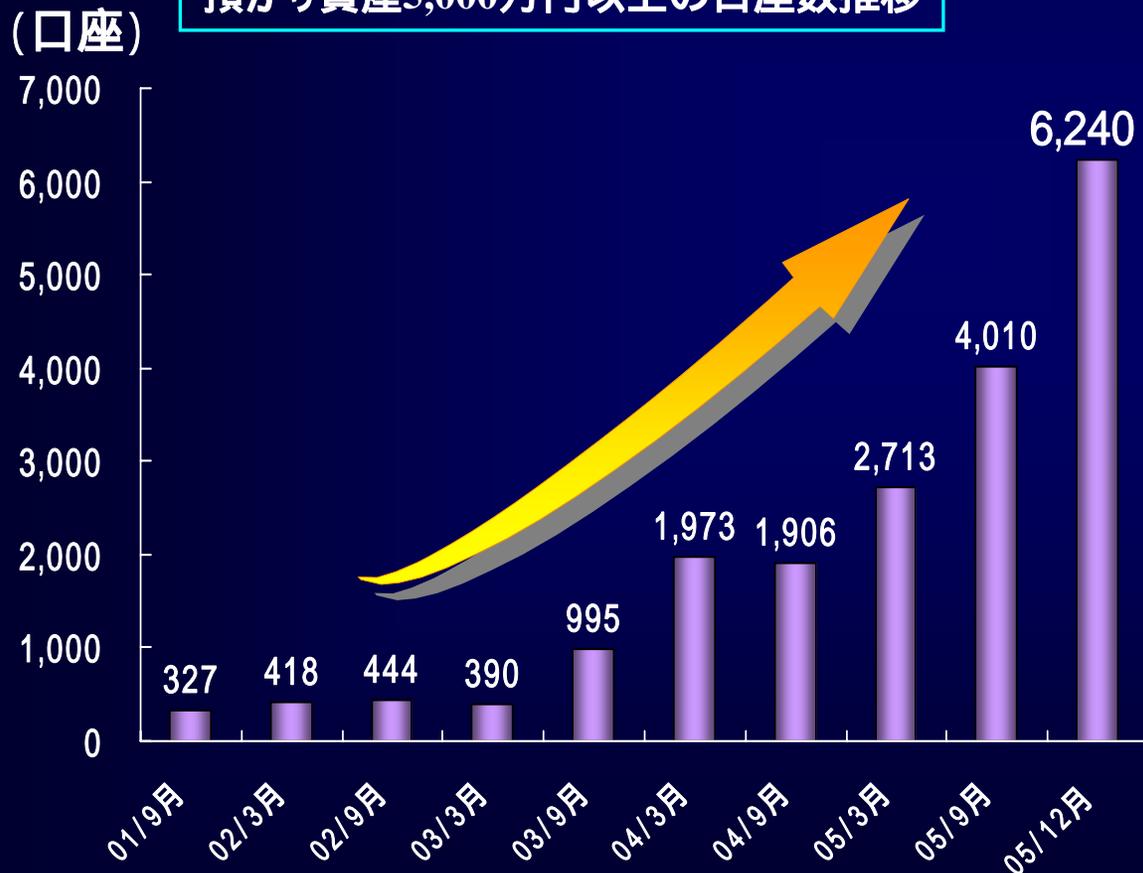
子会社コンテンツ

「高額品オークション」の提供

- 拡大を続けるSBIグループの富裕層顧客基盤 -

イー・トレード証券

預かり資産5,000万円以上の口座数推移



SBIグループ
による品質保証

「ガイド」「比較」「高額品オークション」を3つの柱に

SBI Holdings

生活ガイド
.COM

ネットワーク
価値訴求へ

消費者がより
スマートに

「価格」訴求から
「価値」訴求へ
さらにインターネット
時代には「ネット
ワーク価値」訴求へ

・顧客中心市場の形成
・投資家主権の確立

顧客ニーズ

顧客グループ

生活関連
ネットワーク事業

比較ALL™

オークション機能

新規に追加

独自技術・サービス

比較・検索市場の創出

欲しい情報に辿り着くための
ナビゲート機能の提供

ネットワーク間競争

ネット銀行設立に向けた 本格的準備

ネット銀行設立(準備中)

住友信託銀行との包括的な提携推進

ネットとリアルの融合

住友信託銀行との多面的提携による事業展開

(2005年1月17日発表)

1. ネットとリアルとの融合

- ・イー・トレード証券が住友信託銀行の信託契約代理店・併營業務代理店となる
また、銀行法改正後早期に銀行代理店となる
- ・イー・トレード証券が住友信託銀行と証券仲介及び市場誘導ビジネスの提携を行う
- ・住宅ローン商品の相互取次ぎ(SBIモーゲージ SBIモーゲージ・コンサルティング)

2. 証券と銀行の融合(プライベート・バンキング部門)

- ・住信グループからSBIグループ顧客への預金・ローン・信託・不動産等の商品・サービスと資産運用・資産管理・相続等のコンサルティングの提供
- ・SBI証券から住友信託銀行顧客への未上場株式組入商品等の提供

3. 商品の共同開発・共同販売等

- ・両グループが組成・運用する投資信託の相互提供(SBIアセットマネジメント)
- ・新たな投資信託の共同組成(モーニングスター)
- ・不動産仲介サービスのSBIグループ顧客への提供(SBIホールディングス)

4 . SBIグループビジョン

新生SBIグループ3つのビジョン

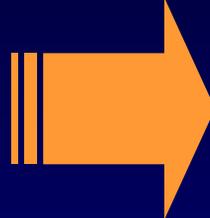
1. 顧客価値を土台として、株主価値・人材価値との相乗効果を働かせ企業価値の極大化を図る
2. 株主価値を、現在のグループ内上場企業の時価総額約1兆円から、3年後に3兆円、5年以内に5兆円とする
3. 「強い企業」から「強くて尊敬される企業」を目指す

(2. グループ内上場企業 = SBIホールディングス及びその連結子会社、持分法適用会社)

現在のSBIグループ合算時価総額

極めて短期間に合算時価総額は大幅に拡大

2005年4月26日
8,862億円



1兆7,544億円増加

2006年1月16日
2兆6,406億円

	2005年 4月26日現在	2006年 1月16日現在
SBIホールディングス	3,224億円	8,021億円
イー・トレード証券	3,810億円	1兆2,693億円
ファイナンス・オール	1,035億円	1,725億円
SBI証券	472億円	900億円
SBIパートナーズ	(グループ外)	1,146億円
モーニングスター	135億円	308億円
SBIベリトランス	186億円	258億円
ゼファー	(グループ外)	1,352億円

5 . SBIグループ各社における 積極的株主還元

SBIホールディングス 今期の利益配当案

第3四半期連結業績において、既に過去最高であった前期通期連結業績を大幅に上回る好業績を勘案し、前期比約43%増となる大幅増配を予定

(1株につき)

	2006年3月期 (今期)	2005年3月期 (前期)
期末配当金	500円	350円

イー・トレード証券 今期の利益配当案

普通株式1株につき、1,600円の普通配当を実施する予定。(2006年2月1日効力発生 of 1対3の株式分割考慮後。) 分割考慮前では4,800円となり、前期の2,300円(記念配当含む)から2倍以上の大幅増額配当となる。普通配当では前期比3倍以上。

	2006年3月期 (今期)		2005年3月期 (前期)
	1株につき (分割考慮後)	(分割考慮前)	1株につき
普通配当	1,600円	4,800円	1,500円
上場記念配当	-	-	800円
合計	1,600円	4,800円	2,300円

2006年2月1日をもって普通株式1株を3株に分割いたします。

モーニングスター 今期の利益配当案

2006年1月19日発表

前期比実質78%増となる大幅増配を予定

(1株につき)

	2005年12月期 (今期)	2004年12月期 (前期)
期末配当金	400円	450円 (分割考慮後225円)

SBIペリトランス 株式分割実施

2006年1月23日発表

1対3の株式分割を発表

基準日:2006年3月31日

効力発生日:2006年4月1日



SBIチャンネル

SBI Channel

SBIグループの情報を動画でお知らせいたします。

SBI

SBI
GROUP
Channel



11月11日配信
中間決算を振り返って

SBIグループの情報を
より詳しく、月3回
ホームページにて
配信中！



12月27日配信
子会社化・合併後の
戦略について - その2



11月24日配信
銀行業進出 - 新たな事業戦略
3つのコアビジネスから
5つのコアビジネスへ



12月4日配信
子会社化・合併について



12月15日配信
子会社化・合併後の
戦略について - その1

<http://www.sbigroup.co.jp>

<http://www.etrade.ne.jp>

<http://www.sbi-sec.co.jp>

<http://www.financeall.jp>

<http://www.sbi-pts.co.jp>